

『靈竺淨慈自得禪師錄抄』の研究（一）

——洞門抄物（語録抄）研究序説——

禅籍抄物研究会

代表 石川力山

一、はじめに

中世洞門抄物の研究は、主に国語学研究の立場から進められてきたが、近年の歴史学研究の立場からの依用、さらには専門の中世禅宗史や曹洞宗史の立場からの研究も相次ぎ、思想史ならびに教団史解明の双方に関わる新たな視点を提供することにもなり、斯学研究の基礎資料としての市民権も漸く得つつあるといえる。

こうした機運に支えられて、洞門抄物に学的興味を抱いている同学の方々と、数年前からいくつかの禅籍抄物を取りあげ、遅々とした歩みではあったが、これまで継続してくることができた。その成果についても既に発表したものがあるが、^①今回からは『靈竺淨慈自得禪師錄』（以下、『自得禪師錄』と略称）に対する、峨山の抄とする伝承もある『靈竺淨慈自得禪師錄抄』について、その翻刻を中心に、研究会メン

バーの寄稿論文も併せ掲載しながら、これからかなり長期にわたると思われるが、連載を続けたいと念願している。

なお、今回の翻刻の原稿作成に関わったメンバーは、曹洞宗宗学研究所主任熊本英人・同所員尾崎正善・同所員飯塚大展・駒沢女子短期大学助教授安藤嘉則・駒澤大學大学院博士課程道津綾乃・同修士課程石附正賢の各氏である。また、七、八年前に『自得禪師錄抄』の研究会に出席されていた諸氏は、現駒澤短期大學仏教科助教授角田泰隆・同講師志部憲一・都留文科大学教授樋渡登・曹洞宗宗学研究所幹事粟谷良道・同研究員中野優子等の各氏であったと記憶している。当時、あくせくしながら読み進めたもので、まだ研究としては不十分であり、何事もこれからであるが、こうして日の目を見るに至ったことについては、各位に心より御礼申し上げたい。

二、『自得禪師錄抄』について

ところで、中世禅宗界の中心的修行体系であった公案・看話の禅の実態は、多数の禅籍抄物関係資料によって知られる。そして、洞門抄物の中でその中心的存在を占めているのが「門参」「代語」関係の資料であるが、この代語の伝統が道元にも見出すことができることはすでに指摘したことがあり⁽²⁾、その方法は語録抄にも受け継がれた。語録抄は原則的には祖師の語録や公案の提唱録という形態をとるもので、語釈的なものから達意的な注釈などを内容とするが、一節の講義が終わるや、最後は五言・七言の句をもって締めくくられるのを例とした。このように語録抄は、「聞書(注釈)」であると同時に「代語」の記録ともなっていることが基本的な性格であり、代語や門参がその対象を公案話頭に限定し、集約した形でまとめたものであることは容易に推測できる。切紙資料はその範囲を礼儀や口決等にまで拡大したものとみることができる。ただし門参や切紙資料が門派独自の受け止め方にこだわる特徴であり、その意味から洞門抄物の発展課程を考える上からは、語録抄の検討は欠くことができない課題である。

本稿で取りあげる『自得禪師錄抄』を最初に発見したのは、今から十数年前、当時『永平寺史』の編集のために九州

地方に資料調査に出張した際、その帰路に河村孝道先生とともに、月舟宗胡の出家得度の寺として知られる佐賀県武雄市の円応寺に立ち寄った際のこと、中世末期の元龜三年(一五七二)書写、「峨山和尚誦抄」の識語を有するテキストであった。もしこれが確かに峨山韶碩(一二七五―一三六五)の抄を伝えるものであるなら、瑩山紹瑾のものとされる『報恩錄』に次いで古い伝承を持つカナ抄物ということとなり、中世曹洞宗の思想史解明のための貴重な資料になることは疑いない。この抄物資料を所蔵する円応寺は、長門大寧寺の末寺で、永正十四年(一五二七)大寧寺九世天甫存佐(一五一七)の法嗣の了然永超(一五五二)開山の石屋派の寺院で、同寺には貴重な石屋派の門参資料も多数所蔵されている⁽³⁾。

また、曹洞宗関係の抄物資料の研究が、国語学における特に中世から近世にかけての東国語研究に出発したこと、これと地域的に関係の深い通幻派の中のと庵派や天真自性派の抄物資料が研究対象の大半を占め、これに太源派のものが加わる程度であったが、新たに薩摩福昌寺から四国・九州地方に教線を展開した、通幻派の中の石屋真梁(一三四五―一四二三)派下の多数の門参資料が研究対象として加えられることになった⁽⁵⁾。

円応寺本の『自得禪師錄抄』は、卷二・四・五・六が現存し、残念ながら卷一の巻頭部分が欠けているのが惜しまれる

が、その後、『自得暉録抄』の同系統の抄や異本の発見が相次ぎ、巻一部を有するテキストも四種になり、中には完本の存在も知られるに至り、円応寺本に欠けていた部分はすべて補われることになった。これまでに筆者が見ることができたテキストは、次のようなものである。

- ①長崎県円応寺所蔵本（元龜三年書写）巻二・四・五・六
- ②愛知県西明寺所蔵本（書写年不明、中世末）巻一・二
- ③館林市小池篤氏旧蔵本（完本、書写年不明、室町末）巻一・二・三・四・五・六⁽⁶⁾
- ④上田市大輪寺所蔵本（書写年不明、近世初期）巻一・二
- ⑤愛知県松源院所蔵本（書写不明、近世）巻一・四・五・六
- ⑥山梨県広嚴院所蔵本（書写年不明、近世）巻三⁽⁷⁾

これらの内、抄者を峨山とするテキストは依然として円応寺のみであり、「峨山抄」の史実性については、現在これを傍証する史料はないが、大智（一二九〇～一三六六）の『無尽集』などにも引用されており、宏智正覚とともに自得慧暉の語録が曹洞宗で用いられた歴史は古い。⁽⁸⁾

三、『自得禪師録』について

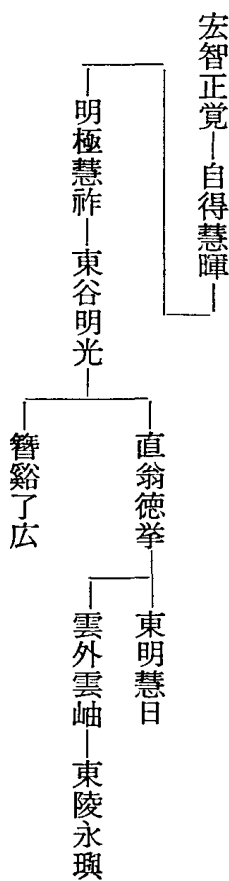
自得慧暉（一〇九七～一一八三）⁽⁹⁾は、中国曹洞宗宏智派の祖宏智正覚（一〇九一～一一五七）の法嗣で、若き日の如浄も参

『靈竺浄慈自得禪師録抄』の研究（一）（石川）

じた当時の代表的な曹洞禪僧であり、補陀寺・万寿寺・吉祥寺、及び雪竇山・臨安浄慈寺等に歴住しており、『自得慧暉禪師語録』は、巻一上堂・小参、巻二上三上堂、巻四示衆、巻五機縁問答、巻六各種下火からなり、上堂と小参（巻一～三）には、全篇にわたって石霜明総の下語が附されている。下語者石霜については、語録に附された、法弟石窓洪恭撰の塔銘に、

法嗣之出世人一十三人也、石霜総東谷光等為首、会下雲衆七百
余員也、
（統蔵二、二九、五、四七八C）

とあり、自得会下の僧と思われるが、この塔銘には年記等に疑問があり問題は残る。また、編者簪谿了広は、自得の法孫で、後に日本に渡来する東明慧日（一二七一～一三四〇）の師直翁徳挙の法弟に当り、その系譜を示せば次の通りである。



この『自得暉録』の版本については、今日、江戸期の正保三年（一六四六）、および明暦二年（一六五六）の二本が知られているが、⁽¹⁰⁾これが果たして中国において開版されていたかど

うかは全く不明である。また写本として、松ヶ岡文庫に卷二・卷三部分の室町末期の零本が一本、駒澤大学図書館に卷一部分の書写年不明の零本が一本知られていたが、前述の小池氏旧蔵の室町末期の書写と思われる完本は、元来は語録本文の写本で、抄文は後に行間や匡郭欄外等⁽¹⁾に書き込まれたものであり、貴重な本文研究のテキストであることが判明した。

語録の本文は、円応寺本略をはじめとして、抄の諸本には省されることなくすべて書写されており、本文研究の際にも重要な諸本の一となろう。ただし円応寺本などには、日本語語脈と混同したと見られる語順の写誤が目につく⁽²⁾。また、江戸期の刊本に見られる、紹興二十九年(一一五九)の自得塔銘は、円応寺本等には存しないが、小池氏旧蔵本には書写されており(ただし「紹興二十年」とする)、さらに中世の伝本の発見が待たれる。

なお、自得の語録に対する中世のカナ抄物があつたらしいことは、やはり『新纂禅籍目録』(一六二頁)の記載によって知られるが、本抄との関係については全く手掛りがない。ただし、自得が曹洞宗の僧であり、当時の臨済宗関係の抄物資料が『碧巖録』『臨済録』『大慧書』等に多いことを考慮するなら、『新纂禅籍目録』記載の『自得禪師録カナ抄』が、曹洞宗の人の手になるのではないかという推測は可能である。

四、小池氏旧蔵本『自得禪師録』について

今回の『自得禪師録抄』翻刻の底本として設定した小池氏旧蔵『自得禪師録』は、現在群馬県前橋市の群馬県立文書館に寄贈され保管されているもので、前述のようにこれは元来一冊本六巻の語録『自得禪師録』そのもので、その行間や欄外等に抄が細大漏らさず書写されており、結果的には『自得禪師録抄』に生まれ変わったテキストと言ってよいが、その最大の資料価値は、唯一の六巻完備の完本ということにある。前記の六本の抄の五本は、いずれも零本・端本であり、全体を通観・通読できる唯一のテキストということである。今回、この翻刻を決意するに至った理由も、この完本の発見に触発されたものであり、資料調査、写真撮影の快諾を与えていただいた小池氏、及び群馬県文書館御当局にも深甚の謝意を表したい。

注

(1) 真歇清了の語録『劫外録』に対する貫之梵鶴の抄『真州長蘆了禪師劫外録抄』の翻刻と共同研究の成果として、『真州長蘆了禪師劫外録抄』の研究(上)(中)(下)、『駒沢大学仏教学部論集』第二十五、二十七号、一九九四年三月、一九九六年三月)が有る。

(2) 石川力山「洞門抄物の発生とその性格」(『財団法人松ヶ岡

文庫研究年報』第二号、一九八八年二月）参照。

- (3) 『自得禪師錄抄』については、石川力山「峨山和尚誦抄『自得暉録』について」(『宗教学論集』第九輯、一九七九年十二月)でその紹介を行った。

- (4) 金田弘『洞門抄物と国語研究』(一九七九年十一月、桜楓社刊)収録の「曹洞宗関係カナ抄物類別一覧表」参照。

- (5) 円応寺にはさらに、瑩山の『報恩録』(零本)や『秘密正法眼蔵』(二本あり、『十則正法眼并抄』と合綴、「永平初祖行状記(建撕記)」附録本)、峨山の『山雲海月図』(標題『未語尽情』、享徳二年入一四五三▽写、文明十一年入一四七九▽再写)、開山了然永超の語録『中興了然大和尚法語』等、中世末から近世初期にかけての貴重な文献が多く所蔵されている。

- (6) 館林市小池篤氏の旧蔵で、現在群馬県立文書館に寄贈保存されている。室町末期頃の書写とみられる。

- (7) 松源院所蔵本は河村孝道博士より御教示提供していただいたものであり、広嚴院本は安藤嘉則氏の御教示による。

- (8) 愛知県西明寺には、さらにもう一本、近世成立書写と思われる系統の異なる自得の語録の巻一・二部分についての注釈書がある。

- (9) 自得慧暉の伝記は、『聯灯会要』巻二十九、『普灯録』巻十三、『続伝灯録』巻二、『禪宗正脈』巻十四、『五灯嚴灯』巻十四、『五灯全書』巻三十等にある。なお続蔵經所収の『自得暉録』には、法弟石窓洪恭が紹興二十九年(一一五九)に撰したとされる塔銘が附されているが、その中に

『靈竺淨慈自得禪師錄抄』の研究(一)(石川)

は、「師為僧六十八年、此中出世十二年、七十歲即遷化、十一歲時剃髮而、云云」(続蔵二、二九、五、四七八c)あるいは「自得和尚紹宏智百歳、家伝密用拳太陽千年行、師游歩七十年、華後豈以言思細可形乎」(同四七八d)とあり、他の諸資料が伝える淳熙十年示寂、世寿八十七、法臘七十五歳説と異なっている。また塔銘撰述の紹興二十九年を示寂年とするなら、宏智より年長となり、この塔銘は資料として疑問が残る。

- (10) 『新纂禅籍目録』(一九六二年六月、駒沢大学図書館刊)一六二頁。

- (11) たとえば「師云、你何ゾ不得過聞」(2ウ)とあるのは、「師云、你何不得聞」とあるべきであり、「師曰、早你カ知落処」(11オ)とあるのは、「師曰、早知你落処」というのが正しい語順であり、この種の誤記が多い。

〔翻刻凡例〕

一、本資料は、群馬県立文書館所蔵(館林市小池篤氏旧蔵)『靈竺淨慈自得禪師錄(抄)』を忠実に翻刻しようとするものであり、語録本文の行間や匡廓外に書写された抄文も、他の抄を参考にした双行の形で挿入した。本号では、巻一の前半部分、すなわち、叙文及び正月から六月に至る上堂・小参の計二十五篇を収録した。

二、改訂については、()内に丁数、及び表裏(オ・ウ)

を付記したが、改行の指示まではしなかった。

一、翻刻に当たっては、異体字・略体字・別体字・俗字等、原文を忠実に再現することにとめたが、省文等、活字用正字に改めたものもある。また、明らかに誤写と思われる部分についてはこれを改め、また脱字が明かな場合には、必要に応じて他のテキストを参考にし、校異に注記した上で「」内に補った。

一、『自得禪師錄』の本文については、今日知られる範囲での異本校訂を行い、その結果を下段に注記した。その際に使用した略号は次の通りである。

- ① 愛知県豊川市西明寺所蔵本—西本
- ② 長野県上田市大輪寺所蔵本—大本
- ③ 愛知県一宮町松源院所蔵本—松本
- ④ 駒澤大學図書館所蔵本（零本）—駒本
- ⑤ 大日本統藏經（二篇二九套第五冊眼）所収本—統本

一、異本の校訂結果については、原則としてすべて注記したが、異体字・別体字・新旧字体等で次のような場合、その異同について注記を省いたものもある。

例、靈—𩇑 事—亼 𩇑—𩇑 𩇑—𩇑 𩇑—𩇑 𩇑—𩇑 𩇑—𩇑
箇—个 婦—𩇑 畢—早

一、西明寺所蔵・大輪寺所蔵・松源院所蔵の『自得禪師錄抄』については、各抄文間の文字や内容の異同等についても注

記すべきところであるが、写本間の異同が多過ぎて逆に内容理解に混乱を生じることを考慮し、通読できるように、活字のポイントを下げて各段落の末尾に並記した。その際、語録の本文については、原文の首尾各二文字を記して抄の対象であることを明示し、△ △内には抄の本文をすべて記した。

一、本研究（翻刻、および異本校訂）は、前回の『劫外錄抄』にもまして長期間を要すると予想されるが、『自得禪師錄』の本文はもとより「抄」についても、目下新資料の調査につとめており、この間に研究に反映できる資料を発見することができたら、随時報告しながら内容に盛り込んでいきたい。

〔附記〕 本稿入稿後、一九九七年八月四日、代表者石川力山が急逝した。従って、その後の校正等については、熊本英人・尾崎正善・飯塚大展・道津綾乃の責任において行った。

(表紙)

靈竺淨慈自得錄一

(1) 還丹一粒、點鉄成金。注云、物始見吃心。至理一言、轉凡為聖。注云、唯一中耳。点

鉄一轉凡一トハ、捨妄入理、轉功就位。然偏中正効之見。又說、附妄曉理、借功明位。然偏位却正。正中偏効之見。又說、鉄自鉄、金自金、凡自凡、聖自聖見吃、作句讀云。偏中正。偏効之見ヨ。如焉惟以、自得老衲者、〔自得〕ハ勅号。自得得自。受於金衣、宏智古佛。此三様。然智云意乎。諱曰惠輝。

トハ、智、執話柄淨慈堂上二矣。〔話柄〕ハ拂柄。可謂、衆星之一輪、万品之孤器也。法嗣。〔淨慈〕ハ寺号。

〔衆星〕トハ、小者ヲ云。〔一輪〕月ノ妄、大者。龜筮者支ニ於洞上春色、龜筮トハ、龜曰ヲ云。〔万品〕ハ小ヲ云。〔孤器〕ハ大ヲ云。龜筮者支ニ於洞上春色、ト、著曰筮灼。

甲執着知吉凶。々々即偏正。支洞上春色トハ、洞山寶鏡三昧、有重離六爻偏正回互說。伏儀世、龜負圖浮河水。以此伏儀始畫八卦。々々トハ、自一生二、自二生三、自三生生四万物。

以レ此可レ知レ之。一トハ陽、二トハ陰。八卦トハ、乾天、兌澤、離火、震雷、巽風、艮山、坤地。是象陰陽、是洞家秘妄。藻鑑者、懸於筮土正

續二哉。〔藻〕トハ、随月轉花物。然、影ノ用所。鑑トハ、胡来胡現一漢現、知孝者脚力。剛柔明鏡トモ云。〔筮土〕トハ、自得本意与佛意、豈別。洞山宝鏡三昧、如是法佛祖

密付ト云ト。佛々祖々如是々々付来。水随三方圓、〔水〕トハ、体。〔方〕トハ、正。道合凡一聖。本意ヲ翼見之。

書者、知是小補非所諧、廣信者也。〔小補〕トハ、声聞・縁覚ノ見。〔廣信〕トハ、大乘。鳳麟居士希玉、

※松本・続本「金衣於」ニ作ル

※諸本「竺土」ニ作ル

※也、松本「乎」ニ作ル

※大本「風」ニ作ル

※西本「布玉」ニ作リ「希イニアリ」トアリ

知^{タル}温^ニ房^ニ之日、

〔鳳麟〕ハ名^ニ。〔希玉〕ハ号^ニ。師且那、即嗣法^ニ。

方見^ニ斯奇錄^ニ、恭表^ニ信^ニ趣^ニ。〔信趣〕何タル録ヲモ、編奏^ニ皇帝

王^ニ。々々一覽

萬壽主^ニ寶溪所^ニ述、

〔萬壽〕ハ、寺号^ニ。〔寶溪〕ハ、自得弟子^ニ。

尤堪^ニ報^ニ附法之恩^ニ。寔是

妙^ニ奇也。不^レ可^レ輕。敬書之荊玉瓏珠、

荆山、出^レ玉処^ニ。下和夏見ヘタリ。

花^ニ話金言^ニ、何モ美知^ニ之謂^ニ。

賢、報^ニ之曰^ニ聖。

以小智小見難及^ニ。

然又此集、

其語尤^ニ希有也。

〔希有〕非^ニ廣智^ニ妙明田地、廣孝^ニ、豈窺^ニ。

〔妙〕トハ、性^ニ。〔明〕トハ心^ニ。然ハ、妙明田地トハ、位裏^ニ。

闢^ニ親^ニ口^ニ顯^ニ金章^ニ、

轉側^ニ天源做處^ニ、那辺^ニ磨^ニ珠^ニ文^ニ挑^ニ。

清光^ニ。

機又趣^ニ。

愚於^ニ蔽^ニ室^ニ拜讀、

璵在^ニ璵^ニ盤^ニ璵^ニ盤^ニ、

言句滯^ニ無^ニ。

或明也暗、真燈自無^ニ。

明^ニ暗^ニ。〔真燈〕トハ、中^ニ。

或清也濁、

清^ニ輕^ニ、

性^ニ水本没^ニ清^ニ濁^ニ。

〔性〕トハ、体^ニ。

方信^ニ道^ニ、一言難^ニ報^ニ。

万季恩、三世易^ニ諳^ニ千古心^ニ。

此書不^レ見、豈^ニ下^ニ。

余確^ニ於拙^ニ〔1オ〕句^ニ、

苟^ニ題^ニ于其^ニ初^ニ。

住靈隱傳祖比丘東谷妙光謹而叙。

〔東谷〕ハ、号^ニ。〔妙光〕ハ、名^ニ。

師弟子故、如^ニ是書酬^ニ法乳之恩^ニ。

此録徑山妙珠首座自持渡扶桑、付与建仁寺東明和尚、以為秘密傳。(1ウ)

〔西明寺本〕

還丹——為聖^ニ還丹^ニ者、物始見時、心テソウソ。數窮見時ハ、性テソウソ。至理性^ニハ一中耳。点鉄——轉凡——捨妄入理、轉功就位、然ハ、徧中正モ効此見。点鉄——轉凡——附事曉理、

- ※表、松本「志」ニ作ル
- ※寶、大本「簪」ニ作ル
- ※松本「所求」ニ作ル
- ※尤、松本・続本「最」ニ作ル
- ※花、続本「華」ニ作リ、西本ニ「美トモアリ」トアリ
- ※西本「日賢」ニ作ル
- ※報、大本・松本「執」ニ作ル
- ※大本「然亦」ニ、松本「然者亦」ニ作ル
- ※尤、松本・続本「最」ニ作ル
- ※闢、西本・続本「闢」ニ、大本「出」ニ、松本「開」ニ作リ、西本ニ「開イニ」トアリ
- ※做處、大本「微処」ニ作ル
- ※大本「敝室」ニ、松本、続本「弊室」ニ作ル
- ※大本「滌盤」ニ作ル
- ※続本「燦爛」ニ作ル
- ※濁、続本「濁」ニ作ル
- ※続本「清濁」ニ作ル
- ※心、西本「意」ニ作リ、「心イニ」トアリ
- ※題、大本・松本「顯」ニ作リ、大本ニ「于」ナシ
- ※住靈院、大本ニナシ
- ※続本「光一作輝」トス
- ※東明、松本「東谷」ニ作ル
- ※続本ニ「胡文狀書秘讀序、四十八章図」アリ

借功明位。然、偏位却正テソウソ。正中偏、効は見ヨ。鉄自鉄、金自金、凡自凡、聖自聖見時、作レ句讀云、偏中正テソウソ。偏モ効は見ヨ。如是ミ機走。焉惟一衲者ハ自得ハ、勅号。諱曰惠暉。自得トハ、自然智云意歟。受於一古佛ハトハ、宏智法嗣テソウソ。執於一上矣ハ話柄ト拂柄ト、云モ。淨慈トハ、寺ノ名テ走。可謂一器也ハ众星トハ、曰小者、一輪トハ、一月莫曰大者。万品トハ、曰小、孤器トハ、曰大器矣。龜筮一春色ハ龜曰卜筮、曰筮、易語。龜甲執筮知吉凶。々々トハ、即偏正テ走ソ。支於一春色ハトハ、洞山宝鏡三昧、有ニ重離六爻偏正回互說。伏犧世龜負圖浮河水、以此伏犧初畫八卦。々々トハ、自一物生三、々生万物。以此可知三也。一トハ、陽。二トハ、陰。八卦トハ、乾ハ天、兌ハ澤、離ハ大也、巽ハ風、坎ハ水、艮ハ山、坤ハ地。是象陰陽。是洞家秘笈。藻鑑一正續ハ藻鑑トハ、藻隨月、花轉物テソウソ。□□影ノ用所タソ。同鑑胡来一現、知□者脚力剛柔。明鑑〔鏡トモ〕トモ云タソ。懸竺一續ハトハ、自得本意与仏意、豈別。又洞山宝鏡三昧、如是法佛々祖々如是。々々附与シ来テソウソ。水随方圓ハトハ、体云タソ。方ハ偏、円□正テソウソ。道合凡聖ハ道ハ、本位ヲ云タソ。凡ハ面、聖ハ理テソウソ。冀見一者也ハトハ、小補トハ、声聞圓覺見解タソ。漸々我身分也。糾明ル者テソウソ。廣信トハ、曰大乘。々々トハ、達佛意人テソウソ。鳳麟一之曰ハ鳳麟トハ、名タソ。布玉トハ、号テソウソ。師ノ旦那即法嗣テソウソ。方見一信趣ハ信趣トハ、何タル録モ編メハ、奏呈帝王。々々一覽之後入藏中。萬壽一所述ハ万寿ハ、寺ノ名タソ。簪ハ、自得ノ弟子テソウソ。尤堪一瓊珠ハトハ、荆山ハ玉ノ出処。見卡和故支。花語金言ハ何モ美タ語テソウソ。知之曰聖ハ以小知小見難見。然又一為也ハトハ、非廣智廣学。豈窺一田地ハ妙ハ性。明ハ心テソウソ。然ハ。妙明田地ハトハ、位裡タソ。闍親一金章ハトハ、轉倒テ走。灵源做処ハトハ、那邊タソ。磨珠一清光ハトハ、来機又趣テ走。愚於一璨爛ハトハ、更言句無滞処。或明也暗ハ明ハ面、暗ハ理。真燈一明暗ハ真灯トハ、曰中タソ。或清也濁ハ清ハ輕、濁ハ重。性水一清濁ハ性トハ、曰体。方信一古意ハ不見之書、万聖千賢、恩豈得報。余擁一而叙ハ東谷ハ、号。妙光ハ、名。師為弟子故、如是書ノ酬法乳之恩。

此録徑山妙珠首座自持、渡三扶桑、付下與、建仁寺東明和尚、以為秘密傳矣。自余以来滴々相承

月海和尚付光鑑、於惟日本応永十七天正月十七日半夜焼却之畢。其屑如灰飛兮。然后光鑑於兜率山依自記得屑一部六卷、又續其文焰者也。蓋是千祥万吉、珍重々々。

〔大輪寺本〕

還丹―成金^ハ注云、物ノ始リニ見^レ、^ハ心テ走ゾ。数ノ窮リニ見^レ、^ハ性テ走ゾ。至理―入聖^ハ注云、惟一^ハ中耳。點^レ鉄成^レ金、轉^レ凡入^レ聖トハ、捨^レ妄入^レ理、轉^レ功就^レ位。然ハ、偏中正モ効^レ、此見^レ。點^レ鉄成^レ金、轉^レ凡入^レ聖、附^レ事曉^レ理、借^レ功明^レ位。然ハ、偏位却テ正テ走ゾ。正中偏モ効^レ、是看^レ。鉄^ハ自鉄、金^ハ自金、凡^ハ自凡、聖^ハ自聖、見^レ、^ハ作句讀曰、偏中正テ走ゾ。偏効^レ、是看^レ。如^レ是見^レ、様テ走ゾ。焉惟―古佛^ハ注云、自得ハ勅号也。諱曰東暉。自得トハ、得^レ自然智、云意歟。受^レ於金^ハ衣、宏智古佛トハ、宏智ノ法嗣テ走ゾ。執話―堂矣^ハ注云、話柄トハ、拂柄ヲ云。淨慈トハ、寺号テ走ゾ。可謂―器也^ハ注云、衆星トハ曰小物、一輪トハ一月事。大物也。万器トハ曰小、孤器トハ曰大器。龜筮―春色^ハ注云、龜筮トハ、龜曰蓍〔音戸高、属平者、以為策也〕、云、筮灼、龜甲執著知吉凶、吉凶即偏正テ走ゾ。支於―春色^ハトハ、洞山寶鏡三昧、有^レ重離六爻偏正回互說。伏羲世龜負^レ圖浮^レ河、水。以此伏羲初畫八卦。八卦トハ、自一生二、自二生三、三生万物、以此可知之也。一トハ、陽也。二トハ、陰也。八卦トハ、乾天也、兌火也、震雷也、巽風也、艮山也、坤地也。是象^ハ陰陽也。是洞家秘妄ナリ。藻鑑―續哉^ハ注云、藻ハ随^レ月、轉^レ花物テ走ゾ。然ハ、影ノ用所テ走。同鑑トハ、胡來現^レ胡、漢來現^レ漢。知^レ脚力對柔。明鏡共ニ云タゾ。懸於―正續^ハトハ、自得之本意与^レ佛意、豈別。亦洞山寶鏡三昧、如^レ是法、佛祖密付スト云タゾ。佛佛祖祖如^レ是。如是ト付寫シ來テ走ゾ。水随方圓^ハトハ、水体ヲ云タゾ。方トハ偏、圓トハ正テ走ゾ。道合凡聖^ハトハ、本意ヲ云タゾ。凡ハ面、聖ハ裡テ走ゾ。冀見―者也^ハ小補トハ、聲聞圓覺見^レ解タゾ。漸漸我身ヲ分ツ也。計明者テ走ゾ〔計、他口切。計訣也〕。廣^レ信者、大乘ヲ云タゾ。大乘トハ、達^レ佛意、人テ走ゾ。風麟―州日^ハ注云、風麟トハ、名タソ。希玉トハ、号テ走ゾ。師旦那、即法嗣デ走ゾ。方見―信趣^ハ注云、信趣トハ、何タル縁モ、編メハ、奏^レ皇帝王。帝王一覽之後、入^レ藏中、万壽―所述^ハ注云、万壽ハ名、簪溪ハ自得弟子也。尤堪―驪珠^ハ注云、荆山ハ、玉ヲ出スル処也。見^レ三和古事。花語金言

ハトハ、何モ美タ語テ走ゾ。知之―曰聖ハ注云、以ニ小知小見難レ及。然亦―有也ハ注云、非ニ廣智學、豈ニ窺ニ妙明田地。ハ注云、妙性、明心テ走ゾ、然ハ妙明田地ハトハ、位裡也。出親―金章ハトハ、轉側テ走ゾ。晉源做処ハトハ、那邊タゾ。磨珠―清光ハトハ、来機又趣テ走ゾ。愚於―璨爛ハ注云、更言句滯ル処ハ無キゾ。或明也暗ハトハ、明ハ面也、暗ハ裏也。真灯―明暗ハ注云、真燈ト云ハ、中テ走ゾ。或清也濁ハ清輕、濁重也。性水―清濁ハ注云、性水、体ヲ云タソ。方道―古心ハ注云、不見レ之書。万年千賢恩、豈得レ報。余撫―而叙ハ注云、東谷号也。妙光名也。師弟子ナル故ニ、如是書酬ニ法乳之恩。此録、徑山妙珠首座自持渡、扶桑、付与建仁寺東明和尚、以為ニ秘密傳。

〔松源院本〕

○還丹―成金ハ物ノ始リニ見ル眈ハ、心デ走ゾ。数ノ窮ニ見ル眈ハ、性デ走ゾ。至理―入聖ハ惟一中耳。点―金、轉―聖トハ、捨妄入理、轉レ功就レ位。然ラバ、偏中モ効此見。点―金轉―聖、附レ妄曉理、借レ功明レ位。然ラハ、偏位却正デ走ゾ。正中偏モ効是見。鉄ハ自鉄、金自金、凡自凡、聖自聖ト見ル眈、作ニ句読云、偏中正デ走ゾ。偏モ効是見。如是三様デ走ゾ。焉惟一古佛ハ自得ハ勅號、諱曰惠暉。自得トハ、得ニ自然智ニ云意歟。受金―佛トハ、智法嗣デ走ゾ。執話―上矣ハ話柄、拂柄。淨慈ハ、寺號。可謂―器也ハ衆星トハ、云ニ小者。一輪トハ、一月、妄ヲ。大者云。万品トハ、云ニ小。孤器トハ、云ニ大。大器ニ亀筮―春色ハ亀筮トハ、亀ト云、者ト曰、筮灼、亀甲執箸知吉凶。々々ハ即偏正デ走ゾ。与ニ於洞上春色トハ、洞山宝鏡三昧有ニ重離六爻偏正回互說。伏犧之世、亀負ニ圖浮レ河水。以此伏犧初畫八卦。々々ハ、自ニ一生ニ、自ニ二生ニ、三、々生ニ万物。以此可知レ之也。一トハ、陽也。二トハ、陰也。八卦トハ、乾ハ天也、兌ハ澤也、離ハ火也、震ハ雷也、巽ハ風也、艮ハ山也、坤ハ地也。是ノ象ハ、陰陽也。是洞家秘笈也。藻鑑―續哉ハ藻トハ、随日花ガ轉物デ走ゾ。然バ、影ノ用処デ走ゾ。同鑑トハ、胡来胡現、漢来漢現。智者脚力、對柔明鏡トモ云タゾ。懸於―正統トハ、自得ノ本意与佛意、豈別。亦洞上宝鏡三昧、如是之法ヲ佛祖密付ト云タゾ。佛々祖々如是、々々附与シ来テ走ゾ。水随方円ハ水ハ体、方ハ偏、円ハ正デ走ゾ。道合凡聖ハ本意ヲ云タゾ。凡ハ面テ、聖ハ裏デ走ゾ。冀見―者

乎ハ小補トハ、聲聞緣覺見解タゾ。漸々ニ我が身ヲ分ベ。廣信者トハ、大乘ヲ云ゾ。大乘トハ、達佛一入デ走ゾ。鳳麟一之日ハ鳳麟ハ、名ゾ。希玉ハ、號デ走ゾ。師之檀那テ、即法嗣也。方見一信趣ハ異表ニ信趣。信趣トハ、何タル録ヲモ編バ奏ニ皇帝王、々々一覽之後、入ニ藏中ト也。萬壽一所求ハ万壽、寺名、簀溪、自得弟子也。最堪一驪珠ハ荆山ハ玉出処也。見ニ下和故吏ニ花語金言ハ何モ美ナル語デ走ゾ。知之曰聖ハ以小智小見難及、然者一有也ハ非廣智廣学、豈窺。妙明田地ハ妙トハ性、明トハ心デ走ゾ。然ハ、妙相田地トハ、位裏デ走ゾ。開親一金章ハ轉側デ走ゾ。靈源做処ハ那辺デ走ゾ。磨珠一清光ハ来機ト亦趣テ走ゾ。愚於一璨爛ハ更言句ノ滯ル所ハ無ゾ。或明也暗ハ表、暗ハ裏也。真燈一明暗ハ真灯ハ、中デ走ゾ。或清也濁ハ清ハ輕、濁ハ重ゾ。性水一清濁ハ性水ハ、体ヲ云タゾ。方信一古心ハ不見之書、万壽千賢恩、豈得報余撫一而叙ハ東谷、號也。妙光ハ名、師之弟子也。故ニ如是書酬法乳之恩。

此録徑山ノ妙珠首座、自持渡扶桑付ニ与建仁寺東谷和尚、以為秘傳一矣。

靈竺淨慈自得禪師錄、第一並石霜明捨禪師下語寄言。

住万年壽小比丘簀溪老人了廣編

靈竺淨慈自得禪師錄第一

※並石霜明捨禪師、下語寄言住ニ万壽一

小師嗣比丘簀谿老人了廣 編

(2) 歳旦上堂。挙ニ拂子云、

正當、上透上漢、下徹黄泉。然乾坤未分処也。

天一篷水一清、海一船遥浮。

自此乾卦連、坤卦断

備。山一繞士一高、

河澤窮妙。定、山澤通氣也。

正与麼尅、具眼漢、何一處在。

中人ヲ云。良久云、夜一鶴夢清、鯨一觜冷、

〔夜鶴〕ハ、正中ノ主也。

※昼梟氣動、鷗一羽稀。

〔昼梟〕ハ、偏中ノ主也。〔一稀〕ナ

リトハ、十分ニハ作用セヌ。

且道、新季頭還有ニ消息也。無。

トハ、正位却偏也。掛ニ拂子云、看一々。

※西本「自得暉」ニ作ル

※並、大本「普」ニ作ル

※大本・駒本・統本「簀」ニ作ル

※云、西本・大本・統本「曰」ニ作ル

松本ニナシ

※尅、駒本「時」ニ作ル

※大本「昼鳥」ニ作ル

百花富貴草精神。注云、就偏得タソ。

石霜捻云、見^{モトメテ}日月^ヲ為^{セン}什麼^ニ。注云、先乾坤二天、篷水清、海船遙浮矣。九

天為^ヲ篷、四海為^ヲ船。露々堂々。又、乾坤分^ト。山繞^{ヒト}土高^{イソカウシウソ}、海澤窮^ム妙[※]、万山

為^シ繞、千河為^ヲ澤。注云、仰觀象於天、俯觀法於地。士高也^{シキ}。一朝直入。窮妙也位裡了

然^{タリ}。自^レ此又^ハ。正与麼尅[※]、君臣道合。懷中^{トハ}。偏正具眼漢、何處在^ル。〔密処〕開^テ豁眼

一見^ス得麼[※]。相逢^不。良久云、從來密處無^シ人^ノ會^{スル}。此^レ不會^ハ夜鶴夢清^{サメテ}（2オ）鯨鯢

冷、正變成^シ偏々未^タ偏。昼梟氣動鷄羽稀、理轉成^シ更々未^タ更。此^レハ、如^シ前^ニ謂^フ、未^タ十分作用

ソ。雖^モ然^ニ如^シ是知音少。變^シ轉^{スル}ヲ且道、新季頭、還有^テ消息[※]麼否^ヤ。古更變^ス色、

今更得^レ新^ヲ。ハ、為^ニ正位却偏^一。百花富貴草精神、又如何。這^ハ是活鉄句。偏位却正^トナス。ド

サテ活句。

〔西明寺本〕

歲旦一拂子八拳拂子正當、上透霄漢、下徹黃泉。然乾坤未分処タソ。曰天一遙浮八自此乾卦連、坤卦断ト備タソ。山繞一窮妙ハトハ、天地定位、山澤通氣。正与一处在八日、中人。良久一驚冷、夜鶴ハ、正中主テソウソ。晝梟一羽稀ハ晝梟ハ、偏中ノ主テソウソ。鯨鯢一羽稀ハトハ、未十分ニハ作用セヌソ。且道一也無八新季頭消息者、正位却偏タソ。掛拂一精神ハトハ、就偏得シタソ。

※「捻云」、西本「捻目」ニ、統本「總目」ニ作ル

※松本・駒本「妙号」ニ作リ、西本「号イニ」トアリ

※松本ニ「万山：了発」ノ二十二字ナシ
※西本・「一超」ニ、大本「一朝」ニ作リ、西本ニ「一朝イニ」トアリ

※「尅」、西本「時」ニ作ル
※「密処」、原本ニハナキモ、諸本ニヨリ補ウ

※「密処」諸本ニナシ

※大本「昼鳥」ニ作ル

※「麼否」、西本ハ「否」ニ、大本・松本ハ「也無」ニニ作ル

※諸本「活句」ニ作リ、西本「鉄イニ」トアリ

石霜一什^ハ广^ハトハ、先乾坤ノ二爻ヲ拂^タツソ。天蓬一堂堂^ハトハ、乾坤ト分テ蹈^出タソ。山撓一為澤^ハトハ、仰觀象於天、俯觀法於地。士高一了然^ハ自是又蹈^入タソ。正与一道合^ハ偏正懷中。具眼一得^ハ广^ハ相逢不相知。良久一人會^ハ此ヲハ、不會カ見^交タソ。夜鶴一未^交ハトハ、此ハ如^二前言^一、未^レ十分作用。雖然一音少^ハトハ、變^レ轉スル曰^レ界^{ヤカイ}。タソ。且道一得^ハ新^ハ為^二正却偏^一。百花一活句^ハ為^二偏却正^一。活句^ハトハ、トツチニモシトメヌハ、活句テハソウヌカ。

〔大輪寺本〕

歳旦一子曰^ハ注云、上透^ニ霄^{カシニ}漢^ニ、下徹^ニ黄泉^ニ。然、乾坤未^レ分^レ処^タソ。天蓬一遙浮^ハ注云、自^レ此乾卦連、坤卦斷^レ備^タソ。山撓一窮妙^ハトハ、天地位定^ム。山澤通^レ氣。正与一处在^ハ注云、中人ヲ曰^レ。良久一觜冷^ハ注云、夜鶴正中主^デ走^ゾ。畫鳥一羽稀^ハ注云、畫鳥、偏中主^デ走^ゾ。鯨觜冷、鵲羽稀^{トハ}、未^レ十分作用^ニソ。且道一也無^ハ注云、新年頭還有^ニ消息^{トハ}、正位却偏也。掛拂一精神^ハ注云、就^レ偏得^タソ。

石霜一什麼^ハ注云、先乾坤二爻ヲ掃除^タソ。天蓬一堂堂^ハトハ、又乾坤ト分テ蹈^出タソ。山撓一為澤^ハ注云、仰觀^ニ象於天^ニ、俯觀^ニ象於地^ニ。士高一了然^ハ注云、自^レ此又蹈^入テ走^ゾ。正与一合道^ハ注云、偏正懷中也。具眼一得^ハ麼^ハ注云、相逢不相知。良久一人會^ハ注云、此不會カ見^レ事^タソ。夜鶴一未事^ハ注云、此如^レ前、言未^ニ十分作用^ニ。雖然一音少^ハ注云、變^レ轉スルヲ云^タソ。且道一得^ハ新^ハ注云、正却^ハ為^二偏^一。百花一活句^ハ注云、偏却^ハ為^二正^一。ドツチニモ留^{シトメ}ヌゾ。サテ活句デハ走^{ヌカ}。

〔松源院本〕

歳旦一拂子^ハ正當、上透^ニ霄^{カシニ}漢^ニ、下徹^ニ黄泉^ニ。然^レバ、乾坤未^レ分^レ処^タソ。天蓬一遙浮^ハ自^レ此乾ノ卦ヲ連、坤ノ卦ヲ斷^レ備^タソ。山撓一窮妙^ハ士ハヒト、高ハ、イソカハシ、妙ハソコ。天地ノ定位、山澤通^レ氣。正与一何処^ハ中人ヲ云^ゾ。良久一觜冷^ハ夜鶴ハ、正中ノ主^デ走^ゾ。畫梟一羽稀^ハ畫梟ヲ、偏中ノ主^デ走^ゾ。鯨觜一ハ、十分ニハ作用セヌゾ。且道一也無^ハ新^ハ息^{トハ}、正位還^テ偏^ヌ。掛拂一精神^ハ注^{ナシ}。

石霜「什麼」先乾坤ニ交ヲ拂尽シタゾ。天蓬「浮」ンダ処ハ、一易ニテ、天地陰陽ヲ含ダニ依テハ矣。九天「堂々」ハ又、乾坤分テ蹈ンデ出デタゾ。山繞「為」澤ハ仰觀ニ象於天、俯觀ニ法於地。土高「了」然ハ自是又蹈入テ走ゾ。正与「道」合ハ偏正懷中。具眼「得」麼ハ相逢不レ相知。良久「人」會ハ此ハ、不レ會ガ見夏タゾ。夜鶴「未」夏ハ爰ハ如「前」云、未「十分」作用。雖然「音」少ハ変ジ轉ズルヲ云タゾ。且道「得」新ハ為「正」却偏ゾ。百花「活」句ハ為「偏」却正、ドツチニモシトメヌゾ。サテ活句デワ走ヌカ。

(3) 同小参云、山上「欄外」、水下「檻前」。夜兔光「雪」、昼烏輝火。注云、山自高、水自深、月自冷、

日自暖。然レハ、出黄頭出レ妙、淨名入レ玄。胡僧印心、盧公傳衣。注云、出世已來傳法。張「三

野曲、李四樵歌。船動ニ碧波、海侵ニ孤天。注云、此レハ平懷常實地。畢竟而有「恁麼」履踐者「麼」。一

喝云、是「什麼」、三「段」不「同」。注云、此喝声三處透。正法輪、當石水声、響岳風声。轉法輪、驗實不實、喝声。平懷常實、松風醒睡、浪声破

夢。

霜云、山上「欄外」、水下「檻前」。夜「兔」光「雪」、昼「烏」氣「火」。以「此」四「句」、曉「一

佛未出世、一「祖」未出興夏矣。黄頭出レ妙、淨名入レ玄。胡僧印心、盧公傳衣。以「此」四「句」、曉「三」諸佛出世、諸祖西來底夏。張「三」野曲、李「四」樵歌、船動ニ「二」碧波、

海侵ニ「孤」天。以「此」四「句」、曉「三」備頭陀乘「本」船、垂「絲」把「釣」竿。石霜下語、三段

不「同」、本分納僧須「参究」。注云、此三處不「心」得、納僧トハ難「言」。

〔西明寺本〕

同小「輝」火ハ山自高、水自深、月自冷、日自暖。然、出世已前ノ正法輪テ走ソ。黄頭「傳」依ハ出世

『靈竺淨慈自得禪師錄抄』の研究(一)(石川)

※「侵」、西本・大本・松本「浸」ニ作ル

※「是什麼」、続本ニナシ

※西本「石霜総曰」ニ、大本「霜曰」ニ作ル

※諸本「前夏」ニ作ル

※「以此」、大本「此以」ニ作ル

※大本ニ「底夏」ナシ

※「侵」、大本・続本「浸」ニ作ル

※「本分」、西本・大本・松本・駒本「本色」ニ作ル

以来轉法輪テ走ソ。張三一孤天ハ是ハ平懷常實地テソウソ。畢竟一不同ハ此ノ喝声カ、三処ニ透テ走ソ。正法輪時ハ、當石水声、響岳風声。轉法輪時ハ、驗実不実、喝声タソ。平懷常実時、松風覺睡、浪声破夢タソ。

石霜一釣竿ハ下語無夏。三段一参究ハ此三処不心得、衲僧トハ難道ソ。

〔大輪寺本〕

同小一輝火ハ注云、山自高、水自深、月自冷、日自暖。然モ、出世已前ノ正法輪テ走ゾ。黃頭一傳衣ハ注云、出世已來、轉法輪テ走ゾ。張三一孤天ハ注云、是ハ平懷常實地テ走ゾ。畢竟一不同ハ注云、此ノ喝声カ、三処ニ透テ走ゾ。正法輪ノ時キハ、當石水声、響岳風声。轉法輪ノ時キハ、驗實不實、喝声。平懷常實時キハ、松風覺睡ヲ、浪声夢ヲ破タソ。霜日一釣竿ハ石霜下語ニ言夏ハ無ゾ。不同一参究ハ注云、此三処ヲ不心得、衲僧トハ難言。

〔松源院本〕

同小一輝火ハ山自高、水自深、月自冷、日自暖。然モ、出世已前ノ正法輪テ走ゾ。黃頭一傳衣ハ出世以来ノ轉法輪テ走ゾ。張三一孤天ハ是ハ平懷常実ノ地テ走ゾ。畢竟一不同ハ此ノ一喝ガ、三処ニ透テ走ゾ。正法輪ノ時ハ、當石水声、響岳風声。轉法輪ノ時ハ、驗実不実、喝声。平懷常実ノ時ハ、松風覺睡、浪声破夢タソ。

霜日一釣竿ハ石霜下語ニ、言一ワ無ゾ。不同一参究ハ三処ヲ不心得、衲僧トハ難言ゾ。

(4)正月十五日上堂云、^{ニ※} 邛月今朝三五風、^{スウ} 嶺頭雪氣縛^ス寒松^ツ。注云、正[※] 不[※]如枯木

得^ッ胡^フ信^ニ、^{トハ、暖信。胡地} 含^ム玉^ツ靈花春夢中。〔靈花〕^{トハ、却外ヨリ} 此^ハ開^キ然^ハ、偏位^ニ。瑞鳥飛來千

万^ニ峰、祥^ニ魚行^ニ過^ニ三三^{ノ※ミツアイ} 深^シ。今^今昨^昨ノ作^用。紛然^{トソ}相^ス見^ス主人眼、歷々^{タル}双^ニ眸^ニ康々通^ス。

※「云」、西本・大本、松本・続本「日」

※「如」、諸本「知」ニ作ル

※「深」、続本「衆」ニ作ル

注云、尽天尽地、
一主人威光也。

霜云、豁[※]開千聖手眼[※]、三明六通。

〔千聖手眼〕トハ、ドノ指頭ニモ、此ノ眼備也。此眼ト云カ、主人聞耳也。三明トハ、一ニハ菩薩明、即是般若

波羅是也。二ニハ諸佛明、即是佛眼也。三ニハ無明、即是畢竟空也。六通トハ、天眼・天耳・他心・宿命・飛行・漏滲。

信手拈来、無不^ニ可^一々。

恣^{ホシ}心弁取、無不^ニ妙^一々。然^トハ、平常心也。此上堂一落作、應^シ見^ニ今時偏正回

互^ト。上ノ二明ト上ノ五通ハ、不^レ互^レ偏位也。後ノ一明ト那一通ハ、回互正位也。故此上堂ノ一落作一^ニ回互^一ト云也。

〔西明寺本〕

正月一寒松ハ々々トハ、正位テソウソ。不知一胡信ハ々々トハ、暖信テ走ソ。胡地ハ、陽氣カ早来ソ。含玉一夢中ハ^ニ灵花トハ、劫外ヨリ此^ニ開タソ。然ハ、偏位タソ。瑞鳥一三深ハトハ、今時之作用テソウソ。紛然一々通ハ^ニ尽天尽地、一主人威光デソウソ。

石霜一六通ハ千眼トハ、トノ指ニモ此眼力タソ。此眼ト曰カ、主人ノ聞耳タソ。三明ハトハ、一ニハ菩薩明。、、者、即是般若波羅密タナリ。二ニハ諸佛明。、、者、即是仏眼也。三ニハ無明々。々々々者、即是畢竟空也。六通ハトハ、天(眼脱カ)・天耳・他心・宿命・飛行・漏滲。上ノ二明、上ノ五通ハ、不^レ互^レ偏位タソ。後ノ一明ト那一通ハ、回互テ正位テソウソ。信手一妙々ハ此ハ、平常心テソウソ。然ハ、今時ノ作用テソウソ。サテコソ此上^ニ回互^一トハ、言タレ。

〔大輪寺本〕

正月一寒松ハ注云、正位テ走ソ。不知一胡信ハ注云、胡信トハ、暖信デ走ソ。胡地ハ陽氣ガ早ク来ルソ。含玉一夢中ハ注云、靈花トハ、劫外ヨリ此^ニ開タソ。然ハ、偏位デ走ソ。瑞鳥一三深ハ注云、今時ノ作用テ走ソ。紛然一處通ハ注云、盡^ニ天盡^一地、一主人ノ威光テ走ソ。霜日一六通ハ注云、千手眼トハ、ドノ指頭ニモ此ノ眼力備タソ。此眼ト云カ、主人ノ聲キ登走ソ。

※西本「石霜総目」、大本・統本「霜目」、
駒本「石霜捻云」ニ作ル

※「落作」、西本・駒本「落索」ニ、松本
「絡索」ニ作り、西本ニハ「作イニ」
トアリ

三明トハ、一ニハ菩薩明。菩薩明者、即是般若波羅蜜也。二ニハ諸佛明。諸佛ノ明トハ、即是佛眼也。三ニハ無明。無明者、即是畢竟空也。六通トハ、天眼・天耳・他心・宿命・飛行・漏・滲。上ノ二明、上五通ハ、不圓互偏位テ走ゾ。後ノ一明ト那一通ハ、圓互正位テ走ゾ。信手一妙妙入注云、是ハ平常心テ走ゾ。然ハ、今時ノ作用テ走ゾ。サテコソ、互此上、圓互ハトハ、云タソ。

〔松源院本〕

正月一寒松入正位テ走ゾ。不知一胡信入胡信トハ、暖信テ走ゾ。胡地ハ、陽氣ガ早来ルゾ。含玉一夢中入靈花トハ、却外ヨリ此ヘ開タソ。然バ、偏位テ走ゾ。瑞鳥一三漈入今眈ノ作用テ走ゾ。紛然一々通入尽天尽地、一主人ノ威光テ走ゾ。

霜云一六通入千手眼トハ、ドノ指頭ニモ此ノ眼ガ備タゾ。此眼ガ主人ノ聞耳テ走ゾ。三明トハ、一ニハ菩薩明ナリ。々々々ト者、即是般若波羅蜜也。二ニハ諸佛明ナリ。々々々トハ、即是佛眼。三ニハ無明明ナリ。々々々ト者、即是畢竟空也。六通者、天眼・天耳・他心・宿命・飛行・漏・滲。上ノ二明、上ノ五通ハ、不圓互偏位タゾ。後ノ一明ト那一通ハ、圓互正位テ走ゾ。信手一妙々ハ爰ハ平常ノ心テ走ゾ。然モ今眈ノ作用テ走ゾ。サテコソ、此上、圓互ハト者、云タレナ。

(5) 同小参[※]、春風吹ニ夜一闇^{トハ、在身覺}。梅香滿ニ衣一襟^{トハ、在鼻}。是什麼人恩力^{トハ、是}。

什麼人^{トハ、在眼見}。飄明夜渡月、飄[※]點嶺岑猿^{トハ、在耳聞}。是阿誰者活計^{トハ、在鼻}。絶[※]却千差之

岐路^{トハ、見聞覺知掃立処}。及^{トハ、儼然露タソ}三^ス尽一朝之風月^{トハ、ナリヤ}。是佛祖分上^{トハ、ナリヤ}也。無。試請、断^{コトワレ}。(3オ)

看^{トハ、注、露現底ハ、真佛カ活祖カ、}。何共更ニ被^{トハ、名ツケ}名^ス。

霜云、尋^{ルニ}人不覺拖^{ヒクツ}泥一水^{トハ、向^テ日方^ニ知接^{スル}ニ}暖氣^{トハ、スル}。是什麼人恩力^{トハ、スル}。就用曉^{トハ、スル}。

※「云」、西本・大本・松本・続本「曰」ニ作ル

※「飄點」、駒本・続本「飄泊」ニ作ル

※「絶却」、大本・松本・駒本「截断」ニ作り、西本ニ「截断イニアリ」トアリ

※西本・松本・駒本「石霜総(捲)云」ニ、大本・続本「霜曰」

瑕生玉鋒露劒、是阿誰者活計。見化明屈レ己ヲシタカウニ徇レ人、厭レ良成レ賤。是佛祖分上ナリヤ

也※否。トハ、曲テ蹈ニ傍徑ニ、佛祖ノ大道ヲ示サン為ニ。天高而不レ仰、地厚而不レ蹈。仰此大道ヲ蹈ニ。雖然、

不レ具ニ此一眼、焉分ニ真一偽。注云、不見纖毫也。大奇。

〔西明寺本〕

同小―恩力ハ春―襟トハ、在身覺。梅香、在鼻艷。是什广人デソウソ。臆明―活計ハ臆明ナリ夜渡月、有眼見。飄飄―猿、在耳聞。是阿誰者タソ。絶却―風月ハ見聞覺知ヲ拂立ル処テ、儼然ト露テ走ソ。是佛―断看ハ露現底ハ、真佛カ活祖カ、更何共名ツケラレヌソ。

石霜―恩力ハ就用曉体ハ瑕生―活計ハ見化明真ハ屈己―也否ハ曲蹈傍（徑カ）往祖佛示大道。天高―不蹈ハ仰ニ此大道、蹈ニ此大道。雖然―真偽ハ不見纖毫也大奇。

〔大輪寺本〕

同小―恩力ハ注云、春風吹ニ夜閣トハ、在身覺、梅香トハ、在鼻艷ハ、是什麼人テ走ソ。臆月―活計ハ注云、臆明夜渡月トハ、在眼ニ見。飄飄嶺岑猿トハ、在耳ハ聾ニ、是誰者活計。截断―風月ハ注云、見聾覺知ヲ掃立ル処テ、現然ト露テ走ソ。是佛―断看ハ注云、露現底ノ者ハ、真佛カ活祖カ、何ニトモ更ニ名ト着ラレヌソ。

霜曰―恩ハ注云、就用曉体。瑕生―活計ハ注云、見佗明真。屈己―也無ハ注云、曲傍徑ヲ蹈ハ佛祖大道ヲ和ス。天高―不蹈ハ注云、仰此ノ大道ヲ蹈ム。雖然―真偽ハ注云、不レ見纖毫也大奇。

〔松源院本〕

同小―恩力ハ春―襟ハ、身ニ在テハ覺フ。梅香ハ在鼻テハ臭ゾ。是什广人テ走ソ。臆明―活

△臆—月ハ在眼見ゾ。飄—猿ハ、在耳聞ゾ。是阿誰者ゾ。截斷—風月△見—聞覺—知ヲ掃立ル処
デ、現然トノ露デ走ゾ。是佛—斷看△露現底ハ、真佛カ活佛カ、何トモ更ニ名付ケラレヌゾ。
石霜—恩力△就、用曉^{アキ}体^ミ。▽。瑕生—活計△見^ミ他^カ、明^ス真^ニ、屈己—也無△曲傍徑、蹈^ヲハ、佛祖ノ
大道ヲ示ス。▽。大高—不蹈△仰^ミ此^ニ、大道、蹈^ミ雖然—真偽△不見^ミ纖毫、也太奇。

(6)二月朔日上堂云、如^ニ月今朝一日晨、風光破^レ玉百花新^{ナリ}。△トハ、世間
法ヲ云^ベ。西来本祖再

来也、万岳千岑皆是親。△トハ、出世
間法ヲ云^ベ。正當恁麼時、喚作^ニ祖師意、也不可。喚作^ニ春

景意、也不可。△トハ、世間法ニモ出世
間法ニモシトメヌ^ベ。且道、喚作^ニ什麼意。舉^ニ拂子云、點。注

此外更有
向上在。

霜云、春花依^ル旧万季春、芳操着^レ新一朶芳。注云、諸緣万境指
向、明々百草頭看。明々、百草頭、歷

々祖師意。看^ミ叱^ミ。喚作^レ草即是、喚作^レ祖即是。見^ニモ不見^ニ
モ落着^ベ。末后一點、無^シ人

會^{スル}。注云、見^レ猶離^レ見^ミ、々不能^レ及^ミ、
畢竟向上ノ更ヲ云^ベ。(3ウ)

〔西明寺本〕

二月—花新△トハ、世間法ヲ云テソウソ。西来—是親△トハ、出世間法ヲ云テソウソ。正當
—不可△出世間法ニモシトメヌソ。且道—云点△此外更有向上在。

石霜—朶芳△諸緣万境指向テ。明々—師意△看時不見。喚作—即是△見^ニモ不^レ落着^ベ、不見
ニモ不^レ落着^ベ。末後—人會△見^レ猶離^レ見^ミ、見^レ不能^レ及^ミ、向上ノ更ヲ云タソ。

※「云」、西本・大本・続本「曰」ニ作ル
※「千岑」、西本・続本「千峰」ニ作リ西
本「岑トモ」トアリ

※「云」、続本「曰」ニ作ル

※西本・松本・駒本「石霜捻云」ニ作リ、
大本・続本「霜曰」ニ作ル

※「祖」、松本「活祖」ニ作ル

※「會」、松本「劣」ニ作ル

〔大輪寺本〕

二月―花新△云、出世間法ヲ云、走ソ▽。西来―是新△注云、出世間法云走ソ▽正當―可也△注云、世間法ニモ、出世間法ニモ留ソ▽。且道―云點△注云、此外更有△向上△在▽。霜曰―朶芳△注云、諸緣萬境指向テ▽。明明―師意△注云、看時不見▽。喚作―即是△見ニモ不見ニモ落着ヌソ▽。末後―人會△注云、見猶離見、見及不能、向上△更ヲ云タソ▽。

〔松源院本〕

上堂―花新△出世間法ヲ云テ走ソ▽。西来―是親△出世間ノ法ニモシトメヌソ▽。且道―云點△此外更有△向上△在▽。石霜―朶芳△諸緣萬境指向云ソ▽。明々―師意△看吃―不見ソ▽。喚作―即是△見不見落着ヌソ▽。末後―人劣△見猶見ヲ離ル、見不及、見不能、向上△更ヲ云テ走ソ▽。

(7)同小参云、鞭子盜△春、野梅吐△玉。注云、先吃節。今時―一路、滿洲歷々。正ラ面△

互。却外奇道、到△者還稀。互。幸△着夜間、蹈△過妙道。トハ、回互不回互。別△

將△深△心△来、与△你相見。此相見△相逢。若不△然、是什麼△碗脱丘。注云、不△吾家具子△。

霜云、最初、以△曉△人々作用・處々風塵。是何△用處、意在△那裡。不△回互△却△最

末、以△曉△人々真皈・佛々本源。是什麼△機用、意在△何△處。回△互△却△若於△古

今中間、撥得轉、幹得開、天上人不△奈△何。此中間△解明△當△天△且於△

此又作麼生。若不△然、是什麼△碗脱丘。注云、何△有用△處。

※「云」、西本、大本・続本「曰」ニ作ル

※西本「石霜総曰」、駒本「石霜総云」、

大本・続本「霜曰」ニ作ル

※「人々」、駒本「ケ々」ニ作ル

※「天上」、諸本「天下」ニ作ル

〔西明寺本〕

同小―吐玉△トハ、先曰ニ時節因縁ニタソ▽。今時―歷々△トハ、正面ニメ不ニ回互ニ▽。却外―還稀△トハ、回互テソウソ▽。幸著―妙道△トハ、不干回互、不干不回互▽。別將―相見△此ノ曰相逢不相知▽。若不―脱丘△不ニ吾家々見子ニ▽。

石霜―那裡△不回互却回互▽。最末―何処△回互却回互▽。若於―奈何△撥―開ハ、當リハテソウソ。此中間ヲ明メ當タヲハ▽。天下―脱丘△何有用▽。

〔大輪寺本〕

同小―吐玉△注云、先曰ニ時節因縁ニ▽。今時―歷々△注云、正ヲ面ニメ不回互▽。却外―還稀△トハ、回互テ走ゾ▽。幸著―妙道△トハ、回互不回互ニ不レ干ゾ▽。別將―相見△注云、此テ相見ト云ハ、相逢不ニ相識ゾ▽。若不―脱丘△注云、不ニ吾家具子ニ▽。

霜曰―那裏△注云、不回互却回互▽。最末―何処△注云、回互却回互▽。若於―奈何△注云、撥得轉、幹得開セバトハ、當リハテ走ゾ。此中間ヲ明メ當ハ▽。天下―脱丘△何用處カ在ン▽。

〔松源院本〕

同小―吐玉△先ツ云、節因縁ニ緑ゾ▽。今時―歷々△正面△不回互也▽。却外―還稀△回互テ走ゾ▽。幸著―妙道△回互不回互不レ干ヲヌゾ▽。別將―相見△相見ト云ハ、相逢相不知ヌゾ▽。若不―脱丘△不ニ吾家具子ニ也。椀〔脱丘〕ハ、無用處ニ▽。

霜云―那裏△不回互却回互▽。最末―何処△回互却回互▽。若於―奈何△撥〔得轉幹得〕開ハ、當リ派デ走ゾ。此中間明當ラバ、天下人不レ奈何ゾ▽。且道―脱丘△何ノ用處カ在▽。

(8)二月望日佛涅槃上堂云、竺土之大仙、今日告ニ涅槃ニ。不生ヲ涅槃ト云、不滅ヲ涅槃ト云。鶴林之米

※「云」、西本・大本・続本、「曰」ニ作ル

子、當下得^{タリ}枯^ツ偏^ニ。

八木双樹、変色シタ、四木ヲ枯ト云、
四木ヲ偏ト云。然、明主滅^ス。且、道、是、同是、別。^{トハ、世尊モ}
滅カトスレハ

不滅、々々カトスレハ滅、更^ニ難^シ分。八木如此見ヘタリ。

四木有^ニ相身、如^ニ来丈六軀^ニ。^{生滅ハ就^ニ有相^ニ。}四木無相身、如来一

實見。^{不生不滅ハ、無相ニ就^ス。}時人見^レ滅、山僧見^レ生。時人見^レ生、山僧見^レ死。於^ニ此中間^ニ、

有^ニ不生不^レ滅^ニ。^{〔理〕ハ、中間不生不滅}

^{共當破、生滅ト成ソ。}遂大覺對^ニ飲光^ニ、自^リ棺中^ニ出^ニ双^ニ趺^ニ。[※]

是什麼心^ノ印妙文^ヲ。

^{トハ、為生滅為^ニ不生不滅^ニ。}

霜云、大^ニ仙釋迦文、曾不^レ示^ニ寂滅^ニ。独於^ニ米子間^ニ、以^ニ寂滅^ニ為^ニ樂^ニ。^{トハ、中}

蓋弄^ニ米字^ニ、八木也。如来、以^ニ此八木双樹^ニ、明^ニ常住壞空^ニ。^{トシタシレハ}
^{常東、住南、壞}
^{西、空北。}

且、道、中間、如何。心^ノ印妙文、一點用不^レ得。知^ル有^ニ底人、試^ニ驗看^ヲ。^{注云、不^レ欲犯^レ中。}

〔西明寺本〕

二月一涅槃^ハ不生曰^レ涅槃、不滅曰^レ涅槃。鶴林一枯偏^ハ八木双樹ノ変色シタル四木ヲ曰^レ枯ト、不變色四木ヲ曰^レ徧。然、明生滅^ハ。且道一是別^ハ世尊モ滅スルカトスレバ不滅、々々入滅^ハ更難分。八木双樹、如是見ヘタソ^ハ。四木一六軀^ハ生滅^ハ、就^ニ有相^ニ。四木一實見^ハ不生不滅^ハ、就無相^ハ。時人一滅理^ハ中間者、不生不滅共ニ當破テ、生滅ト成ソ^ハ。遂大^ニ妙文^ハ為生滅、為不生不滅^ハ。石霜一為案^ハ中間ヲ立処トシタソ^ハ。蓋是^ハ壞空^ハ成^ハ東、住^ハ南、壞^ハ西、空^ハ北テソウソ^ハ。且道一驗看^ハ不^レ欲犯^レ中^ハ。

※大本ニ「此」ナシ

※「双趺」、大本「双肢」ニ作ル

※西本・駒本「石霜捻曰」、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※「蓋是……如来」ノ十一字、原本ニハ傍注トシテ引用サル。

〔大輪寺本〕

二月―涅槃入注云、不生涅槃ト云、不滅ヲ繫ト云。鶴林―枯偏入注云、八木双樹變色シタル、四木ハ枯ト云、四木ヲ偏ト云。然ハ、明ニ生滅。且道―是別入注云、世尊モ滅カトスレバ不滅、不滅カトスレバ入滅、更難分。八木雙樹モ如是ミエタリ。四木―六軀入注云、生滅ハ有相ニ就ソ。四木―實見入注云、不生不滅ハ、無相ニ就ソ。時人―滅理入注云、中間者、不生不滅共當リハテ、生滅ト成ゾ。遂大―妙文入注云、為ニ生滅不生不滅。霜曰―為樂入注云、中間ヲ立処ト云タソ。蓋弄ニ米字ニ八木也。如來―壞空入常東、住南、壞西、空北テ走ゾ。且道―驗看入注云、不欲犯中。

〔松源院本〕

二月―涅槃入不生曰涅槃、不滅曰繫。鶴林―枯偏入八木双樹ノ變色シタル云ウ。四木ハ枯、四木ハ偏。然ハ明生滅。且道―是別入世尊モ滅カトスレバ不滅、々々カトスレバ入滅ス。更難分。八木双樹モ、如是見タソ。四木―六軀入滅ハ有相就タソ。四木―實見入不生不滅ハ、無相ニ就タソ。時人―滅理入中間不生滅共當リ破テ、生滅ナルゾ。遂不―妙文入為ニ生滅、為ニ不生不滅。霜云―為樂入中間ヲ立処トシタソ。蓋是―壞空入常東、住南、壞西、空北テ走ゾ。且道―驗看入不欲犯中。

(9)同小参云、看々、鷲嶺一會、儼然而未散也。此レカ騰看々、淨慈雲衆、巍然不亂。直上直下、是テ挂タ吹、乱。且道、因何當時如來入ニ空穴、因甚山僧上ニ虛堂。畢竟而老倒不。諸人到ニ涅槃堂裡一如何提撕。諸人ノ脚力。記得、新豐和尚臨ニ末后、問僧云、離此殼漏子、何處与吾相見。僧然無對空座。

※注トシテ引用セラル。

※「云」、西本、続本・大本「曰」ニ作ル

※西本・大本「雲集」ニ作り、西本ニ

「衆トモ」トアリ

※「因甚」、大本・駒本「以甚」ニ作り、

松本「因什麼」ニ作ル

※西本・大本「今日山僧」ニ作ル

※続本校ニ「老例一作郎當」トアリ

何^ハ看^ミ云^ハ。乃[※]新豐和尚示^レ偈[※]云、学者恒沙無^ニ一^ハ悟^一。過^ハ佗^ノ在^レ討^ニ。舌頭路^一。悲哉、腦^ハハサル。乃[※]新豐和尚示^レ偈[※]云、学者恒沙無^ニ一^ハ悟^一。過^ハ佗^ノ在^レ討^ニ。舌頭路^一。悲哉、腦^ハハサル。

欲^レ得^ニ忘^レ形^{スルヲ}泯^ニ。蹤跡^一、努力慙^ニ空裏^ニ歩^一。如^レ此語[※]如^レ何行李^{セン}。良久云、

莫^ハ瞞^{シツ}叱^ハ。ハ^ハ差過^スス。唯佛与^ハ佛^一、見^{モ、是ヲ}展^ニ開^ニ兩^一手^ニ云、乃^レ能究^一尽。注云、手^ハ渡^ニ眼。ハ^ハ差過^スス。唯佛与^ハ佛^一、見^{モ、是ヲ}展^ニ開^ニ兩^一手^ニ云、乃^レ能究^一尽。注云、手^ハ渡^ニ眼。

霜云、靈山一會、何^ハ人得^一見。南山雲幕々、淨慈雲衆、誰人得^一知。北間水^ハ浅

一々、トハ、尽天尽地、チ山河大地、甚處得^一来。自得老納至^ニ末后^一、不^レ免^ニ一

場快笑^一。争^{セシ}奈^一、對^ニ衆揚^ニ家醜^一、石霜モ見^スマシテ一概打^タタソ。良久云、展手^ハ是^レ什^ニ麼心行^一。莫^ハ様。

莫^ハ厚^ニ愁意^一、新愁^ハ殺人^一。況^ニ於^一言句^一。

〔西明寺本〕

同小一看看^ハ見^ハ之無形^一。驚嶺一散也^ハ是^ハカ騰古亘^一今ソ。看々一不乱^ハ直上直下^一是^ハテ挂^タタ時、

乱スヘキカ有^テコソ。且道一不少^ハ受^ニ言句^一巴鼻^一、是全不入空六、全不上虛堂。諸人一提撕

引^ニ見^一諸人脚力^一。記得一空座^ハ何ソ看^ト不^レ言^一。乃新一頭路^ハ悲哉腦門著^一地。欲得一空

裡^ハ高著眼^一。如个一久曰^ハ良久ハ莫^ハ瞞眼^一。叱^ハ撻^ハ眼差過^一。唯佛与佛^ハ只云看^タソ。展開一究盡^ハ手渡^ニシニハセヌソ。

石霜一浅々^ハ尽天尽地、チツトモスキハ無ソ。山河一家醜^ハ石霜見^スマシテ一概打^タタソ。サテ何ト打^タソ。良久一心行^ハ莫^ハ作^レ摸^レ作^レ様^一。莫原一殺人^ハ況^ヤ於^ニ言句^一。

〔大輪寺本〕

同小一散也^ハ注云、是^ハカ騰古亘^一今ソ。看看一不乱^ハ注云、是^ハレ直上直下、是^ハ挂^タタ時、乱スキ

※「如何」、大本「如是」ニ作ル

※「云」、西本・続本「曰」ニ作り、駒本

ニナシ

※「吾」、西本・駒本「汝」ニ作ル

※大本ニ「乃」ナシ

※「云」、駒本・続本「曰」ニ作ル

※「一悟」、西本・松本「一語」ニ作り、

西本ニ「悟トモ」トアリ

※「佗在討」、大本・駒本「在討他」、続本

「在佗討」ニ作ル

※「空裏歩」、西本「歩空裡」ニ作ル

※「此」、西本・駒本「个」ニ作り、西本

ニ「此ノトモ」トアリ

※「云」、西本・駒本・続本「曰」ニ作

リ、大本ニナシ

※「云」、西本・駒本・続本「曰」ニ作ル

※西本・駒本「石霜総曰(云)」、大本・

続本「霜曰」ニ作ル

※西本「雲集」ニ作ル

※大本・松本・駒本・続本「北澗」ニ作ル

※「云」、西本「曰」ニ作り、駒本ニナシ

※「厚」、西本・松本・駒本「原」ニ作り、

西本ニ「愿イニ」、松本ニ「原」トアリ

ガ有テコソ。且道提撕入注云、諸人脚力ヲ引見タソ。記得一空坐入注云、何看不言。新豐頭路入注云、悲哉、腦門著地。欲得裡歩入注云、高着眼看。如此良久入注云、莫滿眼。叱トハ、拶眼スレバ差過ス。唯佛与佛只是ヲ看タソ。展開一究盡入注云、手渡ニハセヌゾ。

霜曰一淺淺入注云、盡天盡地、チットモスキハ無イゾ。山河一家醜入石霜モ見スマノ、一概ヲ打タソ。良久一心行入注云、莫作模作様。厚愁一笑殺入注云、況於言句哉。

〔松源院本〕

同小一未散入是騰古亘今。看々不乱入是直上直下、是挂エタ屹キ、乱ラウズ透ガ有テコソ。且道提撕入諸人脚力引見タソ。記得一空坐入何見不言。乃新頭路入悲哉腦門著地。欲得裏歩入高着眼看。如此久云入莫瞞眼。叱入拶眼スレバ差過。唯佛與佛入唯佛與佛モ、只是ヲ看タソ。展開一究盡入手離ニワセヌゾ。

霜云一淺々入尽天尽地、一寸モ透キ無イゾ。山河一家醜入石霜モ見スマシノ、一概ヲ打タソ。良久一心行入莫作模作様。莫厚一殺人入況於言句乎。

(10) 三月旦上堂云、花月今朝朔旭前、晦日、朔日、曉、無月、桂輪普轉満天邊。晦日、朔日、曉、無月、

月ハ無。枝花馥郁、清香在、烏鵲從來同ニ夜一蟾。陰カトスレハ、出世也慧日照ニ世間、

宣説也廣開ニ甘露門。出世ノ地、宣説ノ処ヲ、卓主丈一下撞ノケタソ。卓主丈一下云、烏机重々縛、竹スガ

鶉衣寸々針。刺シト子。然ハ、不出世ノ地、不宜説ノ処ニ行李スル。

霜云、何故、以明一旭一比ニ夜一蟾。譬如人々双眼。明暗モ、陰陽モ、一方天上日

※「云」、西本・大本・続本「曰」ニ作ル

※「枝花」、西本「梅花」ニ作り、「枝トモアリ」トアリ

※西本・大本・松本・駒本「惠日」ニ作ル

※西本・大本・松本「挂杖」ニ作り、駒本「主杖」ニ作ル

※「云」、西本・駒本「曰」ニ作り、大本ニナク、西本ニ「曰イニナシ」トアリ

※「縛」、続本「縛」ニ作ル

※西本「石霜捻曰」、駒本「石霜捻云」、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※西本「石霜捻曰」、駒本「石霜捻云」、大本・続本「霜曰」ニ作ル

月、地下草木、皆是法王作用也。カウ見ルハ、出世ノ眼、宜説ノ眼。不見^レ見^レ道、森羅万象古佛家風、不出世地。碧落清霄道人活計。不宜説ノ人。^(5オ)

〔西明寺本〕

三月―旭前^ハトハ、晦日、朔日曉、無月マツ界ヲ云タソ[▽]。桂輪―天辺^ハ晦日霄、朔日曉、月ハ無[▽]。桂輪―辺^ハ為^レ暗、明タソ[▽]。梅花―夜蟾^ハ為^レ陽、陰タソ[▽]。出世―露門^ハ出世、宜説^処タソ[▽]。卓柱―下曰^ハツイテノケタソ[▽]。烏机―々縛^ハ烏机トハ、竹スカキテソウソ[▽]。鶉衣―々針^ハ鶉衣トハ、サシツムリテソウソ。然、不出世地、不宜説^処、行李シタソ[▽]。石霜―双眼^ハ明暗、陰陽、一方缺[▽]。天上―家風^ハ不出世地タソ[▽]。碧落―活計^ハ不宜説人テソウソ[▽]。

〔大輪寺本〕

三月―旭前^ハ注云、晦日、朔日曉、無月^ハ幕界ヲ云タソ[▽]。桂輪―天辺^ハ注云、晦日、朔日、曉月無、為^レ暗、明タソ[▽]。枝花―夜蟾^ハ注云、為^レ陰、陽タソ。出世タソ[▽]。出世―露門^ハ注云、出ノ地、宜説ノ^処ヲ[▽]。卓柱―下曰^ハツイテノケタソ[▽]。烏机―重縛^ハトハ、竹スガキデ走ゾ[▽]。鶉衣―寸針^ハトハ、サシ縮レテ走ソ。然ハ、不出世ノ地、不宜説^処ニ、行履シタソ[▽]。霜日―雙眼^ハ注云、明暗モ陰陽モ、一方缺テハ、叶ウマジゾ[▽]。天上―用也^ハ注云、向見ハ、出世ノ眼、宜説ノ眼テ走ゾ[▽]。不見―家風^ハ注云、不出世ノ地也[▽]。碧落―活計^ハ注云、不宜説ノ人デ走ゾ[▽]。

〔松源院本〕

三月―旭前^ハ晦日ハ朔日ノ曉キ、無月ノ幕境ヲ云タゾ[▽]。桂輪―天辺^ハ晦日ノ霄、朔日ノ曉キ、月ハ無ゾ。為^レ暗、明タゾ[▽]。枝花―夜蟾^ハ為^レ陰、陽タゾ[▽]。出世―露門^ハ出ノ地、宜説ノ^処ヲ云タゾ[▽]。

卓柱一下云へ夫コヲ、ツイテノケタゾ。鳥机一寸針へサシツムレテ走ゾ。然バ、不出世ノ地、不宣説ノ処ニ、行李シタゾ。

霜云一双眼へ明暗モ双眼モ、一方カケテワ、叶フマジキゾ。天上へ用也へ向見レバ、出世ノ眼カ、宣説ノ眼デ走ゾ。不見へ家風へ不出世ノ地也。碧落へ活計へ不宣説ノ人デ走ゾ。

(11) 同小参云、妙へ明田地、密々而絶ニ待對。位境界。靈源做處、了々而離ニ色

像。報身境。衲僧作用、歴々而作ニ活計。應身ノ境。迷趣ニ三昧、芸々而無ニ了期。

凡夫境界。畢竟而、埋却一坑時、向ニ什麼處ニ安身立命去。四処ノ境界、一路ニ蹈タソ。

暮此正當、一良久云、十季不得飯、忘却來時路。徹底忘却ノ時、家路ニ蹈ム。

霜云、如何是妙明々妙、千聖也不携。法身ノ境界カ那邊タ。程ニ、千聖不携。如何是靈源々靈。報身ノ境界カ、

智不到処タ程ニ、諸靈坐底ノ堂タソ。諸聖坐底堂。如何是衲僧作用。應身ノ境界ハ、自己ノ明ラメハタ程ニ、堅拂拈杖ノ眼。

拈杖眼。如何是迷趣ニ三昧。凡夫ノ境界ハ、目前声色タ程ニ、好雨好晴意。好雨好晴意。且道、如何

何是埋却一坑底事、渡頭日暮客呼船。爰ハ離、彼ハ未到。江上天明人出屋。本居

出未合ニ旅客、暮此畢竟猶帶ニ此風一流ニ在。

〔西明寺本〕

同小一待對へ法身境界テソウソ。靈々一色象へ報身境界テソウソ。衲僧一活計へ應身境界テソウソ。迷趣一了期へ凡夫境界デ走ソ。畢竟一命去へトハ、四処ノ境界ヲ、只一路ニ蹈タ

※「云」、大本・駒本「曰」ニ作ル

※西本・駒本・続本「色象」ニ作ル

※西本・大本・松本・駒本「一坑埋却」ニ作ル

※「飯」、駒本・続本「歸」ニ作ル

※西本・駒本「石霜総（惣）」云、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※「拈杖」、西本「拈丈」、続本「拈槌」ニ作ル

※西本・大本・駒本「一坑埋却」ニ、松本「一境埋却」ニ作ル

※「呼」、西本・大本・松本「喚」ニ作ル

※「屋」、西本・大本・駒本「宅」ニ、松本「家」ニ作り、西本ニ「屋イニ」トアリ

※「帶此」、大本「滯此」ニ作り、松本ニ「此」ナシ

※「在」、原本ニハナキモ、諸本ニヨリ補ウ

ソ。サテ、何タル時節蹈タソ。良久曰、^(ソ)「^(源)此正當蹈テソウ」。十季、時路、徹底忘却當位、家舍・途中無隔ソ。

石霜、不携、法身境界ハ、那边タ程ニ、千聖不携。如何、^(源)々々、^(源)靈、報身境界、智不到、処タ程ニ。諸聖、底堂、タソ。如何、作用、應身境界ハ、自己ノ明メハタ程ニ。豎拂、丈眼、テソウソ。如何、三昧、凡夫境界ハ、目前声色タソ。程ニ。好雨、晴意、テソウソ。且道、喚船、^(虫損)ハ此ヲバ離ツ、彼ニハ未□□。江上、出宅、本源ヲハ立出ツ、未^(虫損)旅客^(虫損)舍、^(虫損)慕此界、四処境界ヲ一路ニ蹈タソ。畢竟、流在、^(虫損)「^(源)現成」。イニナシ。

〔大輪寺本〕

同小、待對、法身ノ境界、走ソ。靈源、色像、報身ノ境界、走ソ。衲僧、活計、應身ノ境界、走ソ。迷趣、了期、凡夫ノ境界、走ソ。畢竟、命去、云、四、^(源)処ノ境界ヲ、只一路ニ蹈タソ。サテ、何ニタル時節蹈タソ。良久而、^(源)慕此ノ正當、一路ニ蹈タソ。十季、時路、徹底忘却ノ時キ、家舍途中ノ隔ハ無イソ。

霜云、不携、法身ノ境界ガ、那边タ呈ニ、千聖不携。如何、^(源)源、^(源)報身ノ境界ハ、智不到、^(源)処タソ。程ニ、諸聖、坐底堂タソ。如何、作用、應身ノ境界ハ、自己ヲ明メ破タ程ニ、豎拂、拈杖、眼テ走ソ。如何、三昧、凡夫ノ境界ハ、目前声色タ程ニ、好雨、晴意、走ソ。且道、喚船、此ヲバ離レ、彼ヘハ未^(源)到ソ。江上、出宅、本居ヲバ、立出ツ、未^(源)旅客^(源)舍、^(源)慕此ノ境界、四処ノ境界ヲ、一路ニ過^(源)蹈タソ。畢竟、流在。

〔松源本〕

同小、待對、法身ノ境界、走ソ。靈源、色像、報身ノ境界、走ソ。衲僧、活計、應身ノ境界、走ソ。迷趣、了^(期カ)語、凡夫ノ境界、走ソ。畢竟、命去、四処ノ境界、只一路ニ蹈タソ。サテ、何タル時節蹈タソ。良久云、^(源)末此ノ正當、一路ニ蹈タソ。十年、^(源)眈路、徹底忘却ノ時キ、

家舎・途中隔テハ無ゾ。

霜云―不携ハ法身ノ境界ガ、那邊ダ呈ニ、千聖不携タゾ。如何―々靈ハ報身ノ境界ハ、智不到ノ処ダ呈ニ。諸聖―底堂ハタゾ。如何―作用ハ応身ノ境界ハ、自己ノ明メ派ダ呈ニ。豎拂―杖眼ハデ走ゾ。如何―三昧ハ凡夫ノ境界ハ、目前ノ声色ダ呈ニ。好雨―晴意ハデ走ゾ。且道―喚船ハ此ヲ離ツ、彼ハ未レ到ヌゾ。江上―出家ハ本居ヲバ立出テ、未ニ旅客合ゾ。驀此ノ境、四―船ノ境界ヲ一路ニ蹈タゾ。畢竟―流在ハ何ニトモ、手ヲ付ヌゾ。

(12)三月望日上堂云、花落ニ秦川ニ流水香、雨晴ニ荷―玉ニ妙珠蔵。偏。祇―麼堂々

消息子、見―来一点不ニ相當。中。静夜鐘声楼上冷、残春岑色付ニ紅―陽。残春

ヲ付ニ紅陽、青山ヲ不レ犯。然ハ、正。好―是滿堂孤峻處、不レ知人―世見ニ金章、中正ヲ云。至、断ニ思量、何、金章ヲカ用。

霜云、驀頭兩句、應レ節花語也。物利生ノ地。次兩句、不レ落ニ前頭花語。中、何ノ

拘ラ。〔次〕兩句静夜鐘声・残春岑色、這時節有レ誰會。正位何有ニ。次兩句雖ニ滿堂高

峻、此景曾人不レ知、徒品句咬吟。中正ノ処、從、且道、誰―是得者。會得シ

タル者ハ無ソ。

〔西明寺本〕

三月―珠蔵ハ偏テ□ウソ。祇麼―相當ハ中テ走ソ。静夜―紅陽ハ殘花ヲ太陽ニ付スレハ、青山ヲハ不レ犯。然ハ、正テ走ソ。好是―金章ハ中正ヲ云テウソ。至中正、絶言語、断ニ思量、

※云、西本・大本・続本「日」ニ作ル
※晴、諸本「清」ニ作り、西本ニ「晴
トモイニアリ」トアリ

※西本「石霜総曰」、駒本「石霜惣云」、
大本・続本「霜曰」ニ作ル
※節、大本・松本「時」ニ作ル
※落、西本ニ「墮イニ」トアリ
※次、原本ニハ無キモ、諸本ニヨリ補ウ
※西本・駒本「之岑色」ニ作ル
※徒、松本ニ「異ニ徒作從」トアリ
※松本ニ「且道……得者」ノ六字ナシ

何用ニ金章^ニ。

石霜―語也^ハトハ、偏位、接物利生地テ走ソ^ノ。次兩―花語^ハ中、何前後拘ハラシヤ^ノ。次兩―誰會^ハ正位、何ソ有ニ會^ニ。次兩―咬吟^ハ中正ノ處、從來明タル者ハ無ソ^ノ。且道―得者^ハ會得シタル者ハナイソ^ノ。

〔大輪寺本〕

三月―珠藏^ハ注云、偏デ走ソ^ノ。祇麼―相當^ハ注云、中^ニテ走ソ^ノ。静夜―紅陽^ハ注云、殘^レ春殘^レ花ヲ、大陽ニ付^レハ、青山ヲハ不^レ犯ゾ。然ハ、正^ニテ走ソ^ノ。好是―金章^ハ注云、中正ヲ云テ走ゾ。中正ニ至テ、言語ヲ絶シ、思量ヲ断ス。何ノ金章ヲカ用^シ。霜日―語也^ハ注云、偏位、接物利生ノ地テ走ソ^ノ。次兩―花語^ハ注云、中^ニ物前後^ノ。次兩―誰會^ハ注云、正位ニ、何ノ會^ハ所カ有^シ。次兩―咬吟^ハ注云、中正ノ處、從來明メタル者ノハ無イソ^ノ。且道―得者^ハ注云、會得シタル者ノハ無イソ^ノ。

〔松源院本〕

三月―珠藏^ハ偏デ走ソ^ノ。祇麼―相當^ハ中^ニテ走ソ^ノ。静夜―紅陽^ハ殘^レ春ノ殘^レ花、大陽ニ付スレバ、青山ヲバ不^レ犯。然バ、正^ニテ走ソ^ノ。好是―金章^ハ中正ヲ云テ走ゾ。中正ニ至テ、言語ヲ絶シ、思量ヲ断ス。何ノ金章ヲカ用^シ。霜云―語也^ハ偏位、接物利生ノ地テ走ソ^ノ。次兩―花語^ハ中ハ、何ンノ前後ニカ抱^シ。次兩―誰會^ハ正位ニ、何ンノ會^ハ處カ有^シ。次兩―咬吟^ハ中正ノ處ニ、從來明メタル者ハ無ゾ^ノ。

(19) 同小参云、桃紅李白落^ッ空^ニ墀^ニ、トハ、目前天^ニ碧地^ニ青懸^ニ錦^ニ機^ニ、自己雲^ニ鶴出^レ篋

過^ニ鳥道^ニ。智不到^ニ飽^ニ参密旨^ニ不^レ傳^ニ時^ニ、那^ニ邊極^ニ縱^ニ恣^ニ麼^ニ履踐^ニ去^ニ、未^ニ是^ニ衲僧^ニ做^ニ處^ニ。衲僧轉身

處^ニ云^ニ畢竟^ニ飯^ニ家貧^ニ時^ニ如何^ニ。酒^ニ肆人^ニ間世^ニ、金^ニ臺^ニ日暮^ニ雲^ニ。トハ、一盃^ニ飲^ニ遣^ニ興^ニ、彈^ニ琴^ニ消^ニ閑^ニ。暮^ニ好^ニ閑^ニ人^ニ成^ニ、大^ニ叟^ニ。

※「同」、西本ニナシ

※「云」、大本・続本「曰」ニ作ル

※西本「金機」ニ作リ「錦トモ」トアリ

※「金臺」、西本・駒本「琴臺」ニ作リ、

西本ニ「金イニ」トアリ

霜云、桃紅李白落ニ空堀、破[※]色[※]皈[※]空去[※]。トハ、拂^{トハ}目前声色^{トハ}、天^{トハ}碧地^{トハ}青懸^{トハ}錦^{トハ}。

機、朗^ニ空圓^ニ性^ニ時^ニ。トハ、自己真照^{トハ}源^{トハ}。雲鶴出^{トハ}籠^{トハ}過^{トハ}鳥^{トハ}道^{トハ}、月^{トハ}落^{トハ}澄潭^{トハ}空^{トハ}。從冥入^{トハ}於冥^{トハ}。

飽參密旨^ノ不傳^ノ時、落處[※]深[※]幽處[※]。トハ、至^{トハ}三位^{トハ}。且^{トハ}道、皈^{トハ}家貧^{トハ}時如何^{トハ}(6オ)。自^{トハ}二位^{トハ}。

中^ニ出頭來^テ、戴[※]天笠子^ト、蹈^ム地草鞋^ト。戴^{トハ}天笠^{トハ}草鞋^{トハ}タソ。然^{トハ}、天^{トハ}天^{トハ}地^{トハ}本地^{トハ}。將^{トハ}謂^{トハ}新^{トハ}年^{トハ}路^{トハ}、

本^ニ是破^ル家^ト夢^ト。トハ、皈^{トハ}這裏^{トハ}、行李^{トハ}。又私^{トハ}、天^{トハ}碧^{トハ}機^{トハ}トハ、桃紅李白^{トハ}無^{トハ}、只天^{トハ}碧^{トハ}地^{トハ}青^{トハ}。錦機^{トハ}、骨格^{トハ}程^{トハ}、自己^{トハ}。

〔西明寺本〕

少參^(マ)空堀^(マ)入^(マ)目前^(マ)ノ声色^(マ)テソウソ^(マ)。天碧^(マ)金機^(マ)入^(マ)自己^(マ)テソウソ^(マ)。雲鶴^(マ)鳥道^(マ)入^(マ)智不到^(マ)轉^(マ)処^(マ)テソウソ^(マ)。飽參^(マ)傳^(マ)時^(マ)入^(マ)トハ、那邊^(マ)極位^(マ)テソウソ^(マ)。縦恁^(マ)做^(マ)処^(マ)入^(マ)トハ、衲僧^(マ)ノ轉^(マ)身^(マ)処^(マ)ヲ云^(マ)タソ^(マ)。畢竟^(マ)暮雲^(マ)入^(マ)一盃^(マ)飲^(マ)テ貞遺^(マ)・琴^(マ)ヲ彈^(マ)ノ閑消^(マ)、マツカウ閑人^(マ)成^(マ)ルカ、大事^(マ)テソウソ^(マ)。

石霜^(マ)空去^(マ)入^(マ)トハ、拂^(マ)目前^(マ)声色^(マ)、到^(マ)自己^(マ)テソウソ^(マ)。天碧^(マ)性^(マ)時^(マ)入^(マ)トハ、自己真照^(マ)源^(マ)ガ、智不到^(マ)処^(マ)テ走^(マ)ソ。雲鶴^(マ)潭空^(マ)入^(マ)トハ、從^(マ)宜^(マ)入^(マ)於^(マ)宜^(マ)タソ^(マ)。飽參^(マ)幽^(マ)処^(マ)入^(マ)トハ、到^(マ)位^(マ)裡^(マ)、極^(マ)ナイソ。且^(マ)道^(マ)草鞋^(マ)入^(マ)天笠子^(マ)ト戴^(マ)、地^(マ)ヲ草鞋^(マ)ト蹈^(マ)テ走^(マ)ソ。然^(マ)、天^(マ)ハ本^(マ)ノ天^(マ)、地^(マ)ハ本地^(マ)タソ^(マ)。將^(マ)謂^(マ)家夢^(マ)入^(マ)這裡^(マ)ニ皈^(マ)テ、行李^(マ)シテ走^(マ)ソ。又云^(マ)機^(マ)入^(マ)桃紅^(マ)モナク、李白^(マ)モナク、只天^(マ)ハ碧^(マ)ニ、地^(マ)ハ青^(マ)ソ。錦機^(マ)入^(マ)骨格^(マ)タ程^(マ)ニ、一^(マ)走^(マ)ソ。

〔大輪寺本〕

同小^(マ)空堀^(マ)入^(マ)注云、目前^(マ)色^(マ)声^(マ)テ走^(マ)ソ。天碧^(マ)錦機^(マ)入^(マ)注云、自己^(マ)テ走^(マ)ソ。雲鶴^(マ)鳥道^(マ)入^(マ)注云、智不到^(マ)轉^(マ)処^(マ)テ走^(マ)ソ。飽參^(マ)傳^(マ)時^(マ)入^(マ)注云、那邊^(マ)ノ極^(マ)位^(マ)テ走^(マ)ソ。縦恁^(マ)做^(マ)処^(マ)入^(マ)注云、衲僧^(マ)轉^(マ)身^(マ)ノ処^(マ)ヲ云^(マ)タソ。畢竟^(マ)暮雲^(マ)入^(マ)注云、一盃^(マ)飲^(マ)テ興遺^(マ)、琴^(マ)ヲ彈^(マ)ノ、閑消^(マ)スルゾ。慕^(マ)向^(マ)成^(マ)閑^(マ)人^(マ)。

※「云」、西本・駒本「石霜総(惣)云」、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※「去」、原本ニハ無キモ、西本・大本・駒本ニヨリ補ウ

※西本「清」ニ作ト、「青イニ」トアリ

※西本「金機」ニ作リ「錦イニ」トアリ

※西本「妙旨」ニ作リ、「密イニ」トス

※「深幽」、大本「深密」ニ、駒本「深源」ニ作ル

※「戴」、続本「載」ニ作ル

※西本・大本・駒本「新來路」ニ作リ、西本ニ「新季頭路トイニ」トス

大「事」テ走ゾ

霜云—空去入注云、目前ノ聲「色」ヲ拂テ、自己ニ到リ走ゾ。天碧—性時入注云、自己真照ノ源カ、智不到ノ処ロテ走ゾ。雲鶴—潭空入注云、從「冥」入於「冥」タソ。飽參—密処入注云、位裡テ、極ハ無イゾ。且道—草鞭入注云、天ヲ笠「子」ト戴、地ヲ草鞋ト踏タソ。然ハ、天ハ本ノ天、地ハ本ノ地デ走ゾ。將謂—家夢入注云、這裡ニ皈テ行履シタソ。又私—錦機入トハ、桃紅モ李「白」モ無イゾ。只天ハ碧ニ、地ハ青イソ。錦機ハ、骨骼タ程ニ、自己テ走ゾ。

〔松源院本〕

同小—空堀入目前ノ声色デ走ゾ。天碧—錦機入自己デ走ゾ。雲鶴—鳥道。入智不到ノ轉処デ走ゾ。飽參—傳時入那辺極位デ走ゾ。縱恁—做処入衲僧轉身ノ処デ走ゾ。畢竟—暮雲入一盃飲テ興ヲ遣、琴ヲ彈ノ閑ヲ消スルゾ。驀向閑人ト成ルガ、大夏デ走ゾ。

霜云—皈空入目前ノ声色ヲ拂テ、自己ニ到リ走ゾ。天碧—性時入自己真照源ガ、智不到ノ処デ走ゾ。雲鶴—潭空入從冥入於冥タソ。飽參—困処入位裏ニ至テ、極リハ無ゾ。且道—草鞋入天ヲ笠子ト頂キ、地ヲ草鞋ト踏タソ。然バ、天ハ本ノ天、地ハ本ノ地デ走ゾ。將謂—家夢入這裏ニ皈テ、行李シタソ。新年ヲ新来ト作ス。又私—機、入桃紅・李白モ無ク、只天ハ碧ニ、地ハ青ゾ。錦機ハ、骨骼ナ呈ニ、自己デ走ゾ。

⑭四月一日上堂云、余月今朝初一日、満山縁樹影青々。現異苗繁茂只

斯是、大地全「分」^{トセ}不^レ成。案^{トハ}。公記得古德山居偈云、学道先須^レ学^レ貧、^{識知識情}

々々后道方「親」^{ハ、通身ハ、識知識情無レ}貧道元無一物、^{トハ、通身ニ}般々受用又「新」^{偏身ヲモ}

且道、古人向「何處」容^レ身。須^レ知、山「河大」地、伊披毛戴角。^{通身偏身共ニ、一}遂^ト攀^ニ

拂子云、看^{ハ、無}々々、喚^{ハ、無}「什麼」為^{ハ、無}二分外^{ハ、無}。

『靈竺淨慈自得禪師錄抄』の研究（一）（石川）

※「云」、西本・大本・続本「曰」ニ作ル

※「斯」、松本「此」ニ作ル

※「云」、西本・大本・続本「曰」ニ作ル

※「古人」、大本「古今」ニ作ル

※「遂」、駒本ニナシ、大本ニ「遂攀拂子

云」、五字ナシ

※「看々」、駒本「看」ニ作ル

霜云、山河大地、受用三昧、自^{リカ}甚[※]處、得^ル个消息^{トハ、大地ヲ遍觀スルニ、何物ヲ取テ偏身トナソウソ。}来。

既是無^一物、為^{ソカ}甚[※]般々新^ル。語勢ヲ受テ見ルニ、無^一物^{ノ処ヲ取タソ。然ハ、通身。}。既^是無^ニ分外^一、為^レ甚[※]

道^一看^シ。語ノ勢ヲ受テ見ルニ、無^ニ分外^一故^一曰、一^一字不說懸河^{トハ、說ヌテモ無ク、說タテモ無ソ。此ヲ現成公}辨。

案、こゝハ聞得タソ。

〔西明寺本〕

四月―青々ハ現成底ニヲ云テ走ソ。異苗―不成ハトハ、公案ヲ云テ走ソ。記得―学貧ハ識知識情ヲ拂テ除タソ。学貧―方親ハ識知識情カ無レバ、通身テ走ソ。貧道―一物ハ通身ニ承當スレバ。般々―又新ハ偏身ヲモカ、ヌソ。又私―通身ハハ公案、偏身ハハ現成タソ。且道―戴角ハ通身偏身共、一拂子ニ举起シタソ。又、私云、山河大地ハ通身、伊カ披毛戴角遍身。通身偏身一枚タソ。遂挙―分外ハト無欠無餘タソ。

石霜―息来ハ大地ヲ偏觀スルニ、何者ヲ取テ通身トナシ、何者ヲ取テ偏身トナサウス。既是―用新ハ受語勢ヲ見ニ、無^一物処ヲ取ツタソ。然ハ、通身テ走ソ。既是―道看ハ受語勢見ルニ、無^ニ分外^一処ヲ取タソ。然ハ、通身タソ。故曰―何辨ハ說ヌテモ無ク、此テ現成ハキコエタソ。

〔大輪寺本〕

四月―青青ハ注云、現成底デ走ソ。異苗―不成ハ注云、公案ヲ云テ走ソ。記得―学貧ハ注云、識知識情ヲ拂除テ、学貧―方親ハ注云、識知識情カ無レハ、通身テ走ソ。貧道―一物ハ注云、通身承當スレハ、般般―又新ハ偏身ヲモ欠ヌゾ。亦、私ニ云、通身ハ公案、偏身ハ現成タソ。且道―戴角ハ注云、通身共ニ一拂子、举起シタソ。亦、私云、山河大地、伊カ披毛戴角。通身偏身一枚タソ。看看―分外ハ注云、無^レ欠無^レ餘。

霜曰―息来ハ注云、大地ヲ偏觀スルニ、何物ヲ取テ通身ト成シ、何物ヲ取テ偏身ト成サウ

※西本「石霜総曰」、駒本「石霜惣云」、

大本・続本「霜曰」ニ作ル

※甚、大本「什麼」ニ作ル

※甚、大本「什麼」ニ作ル

※是、原本ニハ無キモ、諸本ニヨリ補

ウ

※甚、大本「什麼」ニ作ル

※曰、大本・松本「云」ニ作ル

ス。既是一般新入注云、語勢ヲ受ケテ見ルニ、無二分外処取タゾ。然ハ、通身デ走ソ。既是道看入注云、語勢ヲ受テ看ルニ、無二分外処ヲ取タゾ。然ハ、通身デ走ソ。故云何辨入注云、説イタデモ無ク、説カヌデモ無イゾ。此テ現成公案、公案現成ハ尋ヘタソ。

〔松源院本〕

四月一青々入現成底ヲ云テ走ソ。異苗一不成入公案ヲ云テ走ソ。記得一学貧入識智識情ヲ掃除シタゾ。学貧一方親入識智識情が無レバ、通身デ走ソ。貧道一物入通身承當スレバ、一般々一又新入偏身ヲモ欠ヌゾ。又、私云、通身公案、偏身現成タゾ。且道一戴角入通身偏身共ニ、一拂ニ举起シタゾ。又、私云、山河大地ハ、伊ガ皮毛戴角、通身偏身タゾ。遂挙一分外入無欠無餘。

霜云一息来入大地ヲ偏觀スルニ、何物ヲ取テ通身トナシ、何物ヲ取テ偏身ト成走スゾ。既是々々新入語勢ヲ受テ見ルニ、無一物ノ処ヲ取タゾ。然バ、通身デ走ソ。既是道看入語勢ヲ受テ見ルニ、無二分外処ヲ取タゾ。然バ、通身デ走ソ。故云一河辨入説カヌデモ無ク、説タデモ無ゾ。爰デ現成公案々々現成ハ聞ヘタゾ。

(15) 同小参曰、千山鬱密處、涼飄洗ニ夏熱。トハ、那邊トモ云、又、文殊匣裏共云ゾ。今日正當眼、離匣

処ヲ云。利一劍是鑽鉄。トハ、出匣処。元生鉄成タソ。誰道、混底是妄執。山僧云、妄想是真

境。トハ、終千鍛。故(6ウ)經云、居一切時、不起妄念、於諸妄心、亦不休息滅。住ニ妄想境、不レ加了一知。於無了一知、不レ弁ニ真実。地金無、如ニ恁麼履

踐、又如何。良久云、鈍刀ヲモ不捨、性自平等、無ニ平等者。同鉄共、無ニ平等者。地金在鈍、刀在利

※同、西本ニナシ
※「日」、松本・駒本「云」ニ作ル
※「涼飄」、西本・松本・駒本「涼風」ニ作ル
※「熱」、西本・大本・松本・続本「熱」ニ作ル
※「妄想」、西本・大本「忘想」ニ作ル
※「云」、西本・大本・続本「日」ニ作ル、以下同ジ
※「妄執」、西本・大本「忘執」ニ作ル
※西本「空境」ニ作り、「真トモ」トス
※「時」、松本「夏」ニ作ル

霜[※]曰、我聖師遊^テ五天妙土^ニ、開^テ一實知^一見^一、^{地金、鈍刀、驀界ヲ分タル}便引^キ枝牽^ツ蔓^ヲ。

若不^{ンハ}出^セ世^一、争^{テカシ}解^ル有^ニ這^ノ个消息^一。^{トハ、炉煨練回}畢竟而如何、是[※]法住法位、

世間相常住。^{トハ、生鉄自生鉄、真金ハ自真金。}

〔西明寺本〕

小参―夏熱ハ千山―処ヲバ、那边共云イ、又、文殊匣裡青蛇吼時節テソウソ。涼―熱ハ逼人寒イソ。今日―當眼ハトハ、離匣処ヲ云テ走ソ。利劔―鎖鉄ハトハ、匣裡元ノ生鉄ト成タソ。然ハ、混底ノ処テソウソ。誰道―空境ハ終不^シ千煨不^シ百煉。故経―真実ハ此地鉄モナリ、刃モ見ヘヌソ。如恁―久曰ハ不捨鈍刀、不^レ求利劔ヲモ、。性自―等者ハ同鉄ナレトモ、無平等者。鉄ニ在テハ鈍、劔ニ在テハ利ナソ。

石霜―知見ハ鉄刃ノマツ界ヲ分ルヲ、一実知見ト云ソウソ。便引―消息ハ此ハ、炉炭ニ焰ヲ立テ、生鉄煉返処ヲ云タソ。畢竟―常住ハ生鉄自生鉄、真金自真金。

〔大輪寺本〕

同小―夏熱ハ注云、那―邊共ニ云。又、文殊匣裏共ニ云タゾ。此ノ文殊匣裏ニ、青蛇吼時節テ走ゾ。涼瓢―夏熱ハトハ、逼^{キツテ}人寒ゾ。今日―當眼ハトハ、匣ヲ離ル処ヲ云テ走ソ。利劔―鎖鉄ハトハ、匣ヲ出ル処デ、元ノ生鉄ト成テ走ゾ。然ハ、混底テノ處テ走ゾ。誰道―真境ハ注云、終千^ニ鍛百^ニ鍊セヌゾ。故経―真實ハ注云、地金力無ク、刃モ見ヘヌゾ。如恁―良久ハ注云、不^レ捨鈍刀、利劔ヲモ求ヌゾ。性自―等者ハ注云、同鉄ナレ共、無平等ノ者。地金ニ在テハ鈍ニ、刃ニ在テハ利ナソ。

霜曰―知見ハ注云、地金刃ノ驀界ヲ分タルヲ、一實知見ト云走ゾ。便引―消息ハ注云、此ハ炉

※西本・大本「忘念」ニ作ル

※「妄心」、大本「忘想」ニ作ル

※「妄想」、大本「忘想」ニ作ル

※又、大本「亦」ニ作ル

※云、大本ニナシ

※西本・駒本「石霜総(惣)云」ニ作り、

松本「霜云」ニ作ル

※而、駒本ニナシ

炭ニ焰ヲ立テ、生鉄ヲ鍊リ還ス処ヲ云タゾ。畢竟一常住ハ生鉄ハ自生鉄、真金ハ自真金テ走ゾ。

〔松源院本〕

同小一夏熱ハ那边共云イ、亦、文殊匣裏共云タゾ。文殊匣裏ニ青蛇吼ル時節デ走ゾ。涼風一熱ハ逼人寒イゾ。今日一當眼ハ匣ヲ離ル処ヲ云テ走ゾ。利劔一鎗鉄ハ匣ヲ出ル処デ、本ノ生鉄ト成テ走ゾ。然バ、混底ノ処デ走ゾ。誰道一真境ハ終ニ千煨万鍊セヌゾ。故経一眞實ハ地金モ無ク、刃モ見エヌゾ。如恁一久云ハ不捨鈍刀、利劔ヲモ不レ求ゾ。性自一等者ハ同鉄ナレドモ、無三平等者、地金在テハ鈍ニ、刃ニ在テハ利ナゾ。

霜云一知見ハ地金、刃ノ末堺ヲ分タルヲ、一実知見ト云ゾ。便別一消息ハ此ハ、炉炭ニ焰ヲ立テ、生鉄ヲ鍊リ返ス処ヲ云タゾ。畢竟一常住ハ生鉄ハ自生鉄、真金ハ自真金タゾ。

(16)四月安居結夏上堂云、禁足護生曲直中、進不退。安居収一念又機朽。不轉。

一炉香氣香ニ滿室、到當頭、語句無ソ。黃面老師弄ニ拙巧大小黃面乱道シタソ。雖然与一麼、實到ニ

此田地一始得。中當頭契タソ。今日与ニ諸人一説話看。乱不レ生ニ一念、即是安居収一

念。拙不レ行ニ外路、方一是禁足護生。當堂穩坐処。外路既不レ行、天一山地一谷皆妙

界。一念佛纔不レ生、心一識意情悉玄一處。妙ト云、玄ト云カ、中言。縱透得此関、也未慶

快。中無レ相持、此関透得。且道、取ニ什麼一為是。便提提ニテ坐具ニ云、便提起坐具、高指拳テ云。提起坐具當頭契

ソ。看々、山河大地、變作ニ金毛獅子、化成ニ玉牙象王。象ハ、左右物。乃擲下

※「云」、西本・大本・松本・続本「曰」ニ作ル

※松本「機巧」ニ作ル

※「香氣」、駒本「香炉」ニ作ル

※「天山」、駒本「天仙」ニ作ル

※「妙処」、諸本「妙界」ニ作ル

※西本「心意識悉」ニ、駒本「心意識情悉」ニ作リ、西本ニ「識意情悉トモアリ」トアリ

※「悉」、大本・松本「尽」ニ作ル

※「提」、西本・大本・松本・続本「提起」ニ作ル

※「云」、西本・大本「曰」ニ作ル

※「云」、西本・続本「曰」ニ作ル

※西本「石霜総目」、駒本「石霜惣云」、

松本「霜云」ニ作ル

※続本「天地」ニ作ル

※松本・続本「金獅子」ニ作ル

※西本「玉牙象王」、大本「化成玉牙象

坐具^ニ而喝^一喝云、^{中中}用^レ何建^コ立法門^一。^{不^レ見道、只能}當今諱^一才。

霜[※]曰、大地布^レ祥、山河鋪^レ瑞、不^レ妨安居禁足。^{人・非人、羽類・毛類、草木・叢林、共中立^レ処シタソ。}既是

一坐具、變作^ニ金毛獅子・玉象王^一。須^ニ是奇特^一。^{〔奇〕ハ、異也。〔特〕ハ、独也。中言^レ。}就^レ中末^一後

一喝、擲^コ下坐具^一、意在^ニ何處^一。一喝云、是什麼^一。^{當破ト云テ、大衆一時趣散。}

〔西明寺本〕

四月一機^一樗^ハ注云、禁足一中トハ、不進不退^一。安居一^一朽^ハトハ、不動不轉^一。一^一炉^一拙巧^ハ一^一炉一室、當頭ニ無^レ語句^一。黃巧^ハ大小黃面乱道シタソ^一。雖然一始得^ハ中ノ當頭スト叶ヲ云タソ^一。今日一護生^ハトハ、當堂穩坐^レ処ヲ云タソ^一。外路一玄^ハ妙ト云、玄ト云ガ、中ノ言ハテソウソ^一。縦透一慶快^ハ中ニ無中相モツタカ、此関ヲ透得テ走ソ^一。且道一具曰^ハ高サシアケテ云。提起坐具カ、當頭ノ中ニ契タソ^一。看々一象王^ハ金毛獅子・玉牙象王ハ、左右ノ者テソウソ^一。乃擲一喝^ハ中アタレハ、中アタル^一。曰用一法門^ハ不見道^一ヲ、只解不觸^一才^一。

石霜一禁足^ハ人モ非人モ、羽類毛類ノ者モ、草木叢林共ニ、中ヲ立チ^レ処トシタソ^一。既是^一奇特^ハ奇ハ、異^レ。特ハ、獨^レ。中ノ言ハテソウソ^一。就中^一什麼^ハ當レハ破ルト云テ、大衆一時趣散^一。

〔大輪寺本〕

四月一機^一朽^ハ注云、禁足護生曲直ノ中トハ、不進不退^一。安居収念又機^一朽トハ、不動不轉タソ^一。一爐一滿室^ハ注云、到^レ當頭^一、語句ハ無^レ。黃面一拙巧^ハ注云、大小黃面乱道タソ^一。雖然一始得^ハ注云、中ノ當頭ニ、叶イハヲ云タソ^一。今日一護生^ハ注云、當堂穩坐ノ^レ処ヲ云タソ^一。外路一玄^ハ妙ト云、玄ト云ガ、中ノコトバテ走ソ^一。縦透一慶快^ハ注云、中ニ中相無イト持タガ、此^一関ノ透得デ走ソ^一。且道一具云^ハ注云、便チ坐具ヲ高指^レ上テ云。提起シタル坐具

王^一、駒本「玉僧」ニ作ル
※意、大本ニナシ

カ當頭中ニ叶タソ。看看―象王ハ注云、金毛獅子・玉牙象王ハ、左右ノ物テ走ゾ。乃擲―喝云ハ中中、中タル。用何―法門ハ注云、不見道、只能當今不觸舌才。霜曰―禁足ハ注云、人モ非人モ、羽類毛類者モ、草木叢林共ニ、中ヲ立ル処トシタソ。既是一奇特ハ注云、奇ハ、異ナリ。特ハ、獨ナリ。中ノ言テ走ゾ。就中―什麼ハ注云、中中ト云テ、大衆ヲ一時ニ趣散ス。

〔松源院本〕

四月―機巧ハ禁足―中、不進不退ゾ。安―巧ハ、不動不轉タゾ。一炉―香室ハ到當頭、語句ハ無ゾ。黃面―拙巧ハ大小黃面乱道シタゾ。雖然―始得ハ中ノ當頭ニ、契派ヲ云タゾ。今日―護生ハ當堂穩坐ノ処ヲ云タゾ。外路―玄処ハ妙ト云イ、玄ト云ガ、中ノ事デ走ゾ。縱透―慶快ハ中ニ相無イト持タガ、此関ヲ透得テ走ゾ。且道―具云ハ坐具ヲ高ク指シ上テ、提起シタル坐具ガ、當頭中ニ叶タゾ。看々―象王ハ獅子象王ハ、左右ノ物デ走ゾ。乃擲―喝云ハ中中レハ中ル。用何―法門ハ不見道、只能當才。

霜云―禁足ハ人、非人、禽獸、草木叢林共ニ、中ヲ立処トシタゾ。既是一奇特ハ奇ハ、異也。特ハ、独也。中ノ言デ走ゾ。就中―什麼ハ當レバ破ルト云テ、大衆ヲ一時ニ趣イ散ンズ。

(17) 同小参云、天橋横ニ海上、石人走ニ玉階。玄源歌孰得唱、妙唱哥豈得知。且道、令誰識也。鉄牛破夢閑田裡、玉馬着鞭渥洼表。従斯出頭、今時之用、七通八達、処々分曉。

霜云、天橋横ニ海上、通レ古貫今之橋。石人走ニ玉階、一入真

到之機。玄源歌孰得唱、位裡消息説向誰。然ハ、混然藏理事処。妙

※「云」、大本・続本「曰」ニ作り、西本ニナシ

※「分曉」、駒本「親」ニ作ル

※西本「石霜総(惣)云」ニ、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※大本・松本「橋也」トアリ

※「始」、駒本「妙」ニ作ル

※「矣」、駒本ニナシ

唱^(ノ)奇^(ギ)豈^(ニ)得^(レ)知^(チ)、澄^(ニ)潭深^(ニ)、処^(ニ)始^(ニ)看^(ル)魚^(ヲ)。蹈^(ニ)出^(ル)時^(ニ)、数^(ニ)初^(ニ)。然^(レ)且^(レ)道^(ニ)、令^(レ)誰^(ニ)識^(ル)傍^(ニ)也^(ニ)。

角^(ノ)毛^(ニ)完^(ニ)然^(ニ)矣^(ニ)。^(タリ※)一^(ニ)易^(ニ)、鉄牛^(ニ)破^(ル)夢^(ニ)時^(ニ)、耕^(ニ)破^(ル)劫^(ニ)空^(ニ)田^(ニ)地^(ニ)来^(ル)。^(位ニ)二^(ニ)儀^(ニ)、玉馬^(ニ)着^(ル)鞭^(ニ)

時^(ニ)、走^(ニ)過^(ル)滿^(ニ)、効^(ニ)幹^(ニ)坐^(ル)来^(ル)。^(位ニ)四^(ニ)象^(ニ)ノ七^(ニ)通^(ニ)八^(ニ)達^(ニ)時^(ニ)、方^(ニ)是^(ニ)處^(ニ)々^(ニ)分^(ニ)曉^(ニ)。在^(レ)彼^(ニ)同^(ニ)彼^(ニ)、

在^(レ)此^(ニ)同^(ニ)此^(ニ)。^(ハ八卦分ヨリ、有陰陽、有男女、有吉凶、有差別ニ。)「彼此」混融而、時々得^(ル)妙^(ニ)。^(日々大極、時々大極ソウソウ。)且^(レ)

道、是誰^(ニ)分^(ニ)上^(ニ)事^(ニ)。^(日用不知ニ。)

〔西明寺本〕

同小一之橋ハ此小參、石霜云、天橋一今橋トハ、自大極八卦ト蹈出ル路テ走ソ。石人一之機ハトハ、自八卦大極蹈テ入路テ走ソ。玄源一向誰ハ蹈入時ハ物窮。然ハ、混然藏理、処テソウソ。妙唱一看魚ハ蹈出時ハ、数初。然ハ、理^(虫損)未^(ル)「処テソウソ」。且道一完然ハ矣、トハ、一易ノ位テ走ソ。鉄牛一地来ハトハ、二義位テ走ソ。玉馬一生来ハトハ、四象ノ位テ走ソ。七通一同此ハトハ、八卦分テ、有陰陽、有男女、有吉凶、有差別。彼此一得妙ハトハ、日々大極、時々大極テ走ソ。且道一上^(ニ)夏^(ニ)入^(ニ)日用不知。

〔大輪寺本〕

同小一橋也ハ注云、自^(ニ)大極^(ニ)、八卦ト蹈テ出ル路テ走ソ。石人一之機ハ注云、自^(ニ)八卦^(ニ)大極^(ニ)ト蹈^(ニ)入^(ニ)テ走ソ。玄源一向誰ハ注云、蹈入時キハ、物ノ窮也。然ハ、乾然トノ藏理、処テ走ソ。妙唱一看魚ハ注云、蹈出ル則ハ、数ノ初メナリ。然ハ、理^(虫損)未^(ル)彰^(ル)、処テ走ソ。且道一然矣云、ハ注云、一易ノ位テ走ソ。鉄牛一地来ハ注云、二義ノ位テ走ソ。七通一同此ハ注云、八卦ト分テヨリ、有^(ニ)陰^(ニ)陽^(ニ)、有^(ニ)男^(ニ)女^(ニ)、有^(ニ)吉^(ニ)凶^(ニ)、有^(ニ)差^(ニ)別^(ニ)。彼此一得妙ハ注云、日々大極、日々大極テ走ソ。且道一上^(ニ)夏^(ニ)入^(ニ)日用不知。

※「玉馬……生来」ノ十二字、大本ニナシ
※「幹」、西本・駒本「幹」ニ作り、西本「幹トモ」トス
※「時、方是」ノ三字、大本ニナシ
※「彼此」、原文ニ無キモ、諸本ニヨリ補ウ

〔松源院本〕

同小―橋也入自大極八卦ト、蹈テ出ル路デ走ゾ。石人―之機入自八卦^(大)極ト、蹈ミ入テ走ゾ。玄源―向誰入蹈入ノ時ハ、物ノ窮。然バ、混然トノ藏ニ理一夏ニ処デ走ゾ。妙唱―看魚入蹈出ノ時キ、数ノ初メ。然バ、理夏未レ彰処デ走ゾ。且道―然矣入一易ノ処デ走ゾ。鉄牛―地来入二義ノ位デ走ゾ。玉馬―生来入四象ノ位デ走ゾ。七通―同此入八卦ト分テヨリ、有陰陽、有男女、有吉凶、有差別。彼此―得妙入日々大極、時々大極ガ走ゾ。且道―上夏入日用不レ知也。

(18) 五月初一日上堂云、^カ皐月今朝初旭光、玉輝破レ暗露堂々。^{借位} 日々分明久

遠夏、^{借功}威音那畔是時祥。或去天外万季之松下、或来^ハ雲中千古之江上。

^在就位。或芬芸而塵中轉身、^{ハセウソト}或峭措而光裡運步。^{作露地白}畢竟而

天上天下無^ニ不^ニ三昧。且道、是承^ニ誰恩力。^{謂之名不}得狀不得。

^彰霜云、有^ハ時覩彼久遠、猶如今日。有時通身及尽去、^ニ全軀忘^ル性到。^{功位齊}

依^ノ稀移^レ步芦江曉、^{陽極。然。借}髣髴出^レ機古岳前。^{青山頂ヲ離タソ。}須^レ知二一六時

中、^全承^ニ他扶持、^全露^ニ自勢力。^{轉就借全超隱運歩此}

一主人作略。(8オ)

〔西明寺本〕

五月―堂々入借位明功。日々―時祥入借功明位。或去―松下入轉功就位。或来―江上入轉位就功。或芬―轉身入在山下檀越下、成一頭水牯牛。或峭―運歩入作露地白牛趣不去。畢竟

『靈竺淨慈自得禪師錄抄』の研究(一)(石川)

※「云」、大本。続本「曰」ニ作ル

※「是」、大本・松本「此」ニ作ル

※「祥」、松本「詳」ニ作ル

※松本「芳芸」ニ、駒本「芬芒」ニ作ル

※西本「無伊不三昧」、大本・松本「伊無不三昧」、駒本・続本「無不伊三昧」ニ作ル

※西本・駒本「石霜捻(惣)云」、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※松本「妄情」ニ作ル

※「曉」、大本・駒本・続本「晚」ニ作ル

西本ニハ「暮トモ」トアリ

※「力」、大本ニナシ

一恩力ハ謂之、名不得狀不得。

石霜—今日ハトハ、功位俱彰テ走ソ。有時—性到ハトハ、位齊隱テ走ソ。依稀—江曉ハトハ、陽ノ極リタソ。然ハ、借々不借々ノ処デ走ソ。髣髴—岳前ハトハ、青山ノ頂ヲハ離レタソ。然ハ、全超不借々ノ処テソウソ。須知—勢力ハ轉スルモ就モ、借々モ全超モ、隠ルモ彰ルモ、身轉ルモ運歩モ、一主人ノ作略デ走ソ。

〔大輪寺本〕

五月—堂堂ハ注云、借位明功。日日—時祥ハ注云、借功明位。或去—松下ハトハ、轉功就位也。或来—江上ハ注云、轉位就功。或芬—轉身ハ注云、在山下且越家作二頭水牯牛。或峭—運歩ハ注云、露地ノ白牛作テ、趣共不去。畢竟—恩力ハ注云、是云、名不得狀不得。霜曰—今日ハ注云、功位共ニ彰テ走ソ。有時—性到ハ注云、功位齊隱テ走ソ。依稀—江脱ハトハ、陽極テ走ソ。然ハ、借借不借借ノ処テ走ソ。髣髴—岳前ハ注云、青山ノ頂キヲ離レタゾ然ハ、全超不借借ノ処テ走ソ。須知—自勢ハ注云、轉スルモ就モ、借モ全超モ、隠モ、轉身モ運歩モ、一主人ノ作略テ走ソ。

〔松源院本〕

五月—堂々ハ借位明功。曰々—時詳ハ借功明位。或去—松下ハ功轉就位。或来—江上ハ轉位就功。或芳—轉身ハ在山下且越家、作二頭水牯牛。或峭—運歩ハ露地ノ白牛ト成テ、趣トモ不去。畢竟—恩力ハ是レヲ云、名不得狀不得。霜云—今日ハ功位俱彰レテ走ソ。有時—情到ハ功位齊隱レテ走ソ。依稀—江曉ハ陽ノ極デ走ソ。然ハ、不借々ノ処デ走ソ。髣髴—岳前ハ青山ノ頂ヲ離レタゾ。然ハ、全超不借々ノ処テ走ソ。須知—勢力ハ轉スルモ就モ、借全超モ、隠ルモ、轉身モ運歩モ、一主人ノ作畧デ走ソ。

(19)

同小参、孤山梅雨、汾々沄々。熟菓落_レ地、杜鵑啼_レ枝。涼風吹_レ来、水晶

※同、西本ニナシ

簾動。六根對スル。山僧對衆。舉ニ是閑言語、道一流如何聞得。閑言語トハ六根、若將

耳目一見聞、終難レ話。若以ニ言一思ト度、自屈レ己。六根ヲ削リノケ、且道、因レ甚

如レ是。縱レ是黃一面瞿曇・碧眼胡僧、難ニ弁別。世尊モ於三七日中思事、達磨不可得安心、此ヲハ云タソ。

具眼者自看。我ト當着力肝要。

霜曰、佛未ニ出世、早ニ是有ニケ消息。祖未ニ西来、從レ古有ニ妙訳ニ在。眼横鼻直、只

是眼横鼻。佛祖未レ出前、猶有ニケ妙訣、何況出興出来、又闕レ之耶。眉毛之在眼上當ルカ、

出来、且道、是什麼道理。現前公案、大難々々。眼横鼻直上、眼元横、鼻元豎、眉毛ハ元在眼上當、現成公案。石

霜、六根六塵ヲ立置、其外云々。

〔西明寺本〕

小參―簾動ハトハ、六根對スル六塵ヲ云テ走ソ。山僧―聞得ハ閑語トハ六根、六塵ハ閑、更デ走ソ。若將―屈己ハ六根ヲ削テ除ケ、六塵ヲ拂テ除イタソ。且道―弁別ハ世尊モ於三七日中思惟如是、達磨不可得安心ト此ヲ云テ走ソ。具眼―自看ハ當着力肝要タソ。

石霜―訣在ハ眼横鼻直、只是眼横鼻直テ走ソ。佛祖―之耶ハ眉毛元是在眼上當ルカ、出来ノカタチナテ走ソ。且道―々々ハ眼横鼻眼ノ上テ、眼ハ元横、鼻ハ元直、眉毛ハ元在眼上當、現成公案テ走ソ。石霜ハ、六根六塵ヲ立テ於テ、其ノ外ヲ云テ走ソ。

※「云」、大本・統本「曰」ニ作ル

※西本・大本「紛々紜々」ニ作リ、

「紛々」ニ作リ「云々」ナル

※大本「地落」ニ作ル

※「是」、西本・大本・松本「是个(箇)」ニ作ル

※大本「閑得」ニ作ル

※「言思」、大本「言語思度」ニ作ル

※「道」原文ニ無キモ、諸本ニヨリ補ウ

※「甚」、大本「什麼」ニ作ル

※西本・駒本「石霜総(惣)云」、松本「霜云」ニ作ル

※「出世」、西本・松本・駒本「出現」ニ作リ、西本ニ「世トモ」トアリ

※「在」、大本ニナシ

※大本「未出世於以前」ニ、西本・松本・駒本「未出以前」ニ作ル

※「妙訣」、西本・松本「妙義」ニ作ル

※駒本「出興業」ニ作ル

※諸本「現成公案」ニ作ル

〔大輪寺本〕

同小―簾動ハ注云、六根ニ對スル塵ノ六ヲ云テ走ソ。山僧―閑得ハ注云、閑言語トハ六根、六塵ハ閑更デ走ソ。若將―屈己ハ注云六根ヲ削リノケ、六塵ヲ拂除ケタゾ。且道―辨別ハ注云、世尊モ於三七日中、思惟如是更、達磨不可得安心ト、此ヲ云テ走ソ。具眼―自看ハ注云、我ア當着ガ肝要タゾ。

霜曰―妙訣ハ注云、眼横鼻直、只是眼横鼻直デ走ソ。佛祖―之耶ハ注云、眉毛元是在眼上、當出来カ走ソ。且道―大難ハ注云、眼横鼻眼ノ上、眼ハ元横、鼻ハ元直、眉毛元眼上在、當ルカ現成公案テ走ソ。石霜ハ、六根六塵ヲ立テ置、其外ヲ云テ走ソ。

〔松源院本〕

同小―簾動ハ六根ニ對スル六根ヲ云テ走ソ。山僧―閑得ハ閑言語トハ六根、六塵ハ閑更デ走ソ。若以―屈己ハ六根ヲ削除、六塵拂除タゾ。且道―辨別ハ世尊於三七日中、如是更思惟、達磨不可得安心ト、此ヲ云テ走ソ。具眼―自看ハ我ト當着ガ簡要タゾ。

霜云―訣在ハ眼横鼻直デ走ソ。佛祖―之耶ハ眉毛元是在眼上、當ルガ、出来ノ力デ走ソ。且道―々々ハ眼横鼻直ノ上デ、眼ハ元ト横ニ、鼻ハ元堅ニ、眉毛ハ元ト眼上ニ在ト當ルカ、現成公案走ソ。石霜モ六根六塵ヲ立テ置テ、其ノ外ヲ云ワレタゾ。サテコソ、大難々々ヨ。

(20) 五月半蟾上堂云、君看五月半旬、山上雪花满地飛。五月ハ夏至節云テ、夏ノ半

此界ヲ云。烏―鷄昨夜入ニ雲外、鷺鶴今朝出ニ紫微。回互宛轉。木馬声々嘶ニ北風、金鵝口

々啼ニ南枝。木馬ハ陽聞耳、嘶北風トハ陽陰兼。石翁氣瘦運步断、少人道消。玉士情豊豎拳

稀。トハ、君子道長タゾ。又私云、少人道消トハ、陰。君子道長トハ、陽。吾宗ニハ、陰ヲ君トシ、陽ヲ少人トスル。 (8ウ)

※「云」、大本・続本「曰」ニ作ル

※「出」、大本「打」ニ作ル

霜云、作家若不^シ具^ハ是^レ眼^目、何^レ処^ニ来^ル風之端的^一。如是^ハ眼^目トハ、是用^ニ格外之機^一、還^ス佗^ノ物表^ニ之人^一。中^主ハ、主^ハ貧^道重^下注^脚、早^是成^ニ利^害。物^ヲ破^ス。然^ハ、叮^嚙。且^道畢竟如何。騎^虎穿^市過、犯^火去^ニ盜^猪。畢竟子^刃。界見^ス。損^君德^ト云^ス。

〔西明寺本〕

五月―地飛^ハ五月ハ夏至ノ節ト云テ、夏ノ半テ走ソ。半旬ハ正當十五日テ走ソ。驀此界ヲ云タソ。山上―飛^ハ陰テモナク陽テモナイソ。是ヲ立^処トシテ^ハ鳥^鷄―紫^微ハ回^互轉^ソウソ^ハ。木馬―南^枝ハ木^馬トハ、陽ノ聞^耳タソ^ハ。嘶^北風^ハトハ、陽ヲ以^テ陰ヲ兼^テソウソ^ハ。金^鵝ハトハ、陰ノ聞^耳タソ^ハ。啼^南枝^ハトハ、陰ヲ以^テ陽ヲ兼^テ走ソ^ハ。石^翁―步^断ハトハ、少人道消シタソ^ハ。玉^士―拳^稀ハトハ、君子道長タソ。私云、少人道トハ陰、君子道トハ陽テ走ソ。吾宗ニハ、(陰ヲ)君、陽ヲ少人ト云ソ^ハ。石霜―端的^ハ如是^ハ眼^目トハ回^互宛^傳ヲ云テ走ソ^ハ是用^ニ之人^ハ物表人トハ、主中主テ走ソ^ハ。貧道―利^害ハ利^害トハ、物ヲ破ナリ。然^ハ、叮^嚙喪^君德^ニ云^心テ走ソ^ハ。且^道―市^過ハ過^レバ、刃ノ時ハ不^犯ナリ^ハ。犯^火―盜^猪ハトハ、子ノ時ヲ不^犯ナリ。早^竟子^刃ノ驀^界ト見^ヘテ走ソ^ハ。

〔大輪寺本〕

五月―地飛^ハ注云、五月ハ夏至ノ節ト云テ、半夏テ走ソ。半旬ハ、正當十五日テ走ソ。此ノ驀境ヲ云タソ^ハ。山上―地飛^ハ注云、陰テモ陽テモ無イゾ。此ヲ立^処ト云テ走ソ^ハ。鳥^鷄―紫^微ハ注云、回^互宛^轉走^ゾ。木馬―南^枝ハ注云、木馬ハ陽ノ聞^耳テ走ソ^ハ。嘶^北風^ハ陽ハ以^テ兼^陰走^ゾ。金^鵝トハ、陰ノ聞^耳テ走ソ^ハ。啼^南枝^ハ陰ハ以^テ兼^陽走^ゾ。石^翁―步^断ハトハ、少人ノ道

※大本「稀也」ニ作ル
※西本・駒本「石霜総(惣)云」、大本・続本「霜曰」ニ作ル
※「弁」、駒本「巧言」ニ作ル
※「之」、西本・松本ニナシ
※「之」、大本・松本ニナシ
※西本・大本・松本「且道」ニ作ル

消走ゾ。玉士一稀也。君「子道長」走ソ。私云、少人道消トハ、陰ナリ。君「子道長」トハ、陽デ走ゾ。吾宗ニハ、陰ヲ君ト云イ、陽ヲ少人ト云タソ。

霜日一端的ノ注云、如レ是ノ眼「目トハ、回互宛轉」ヲ云タゾ。是用「表人」ノ注云、物表人トハ、主中主デ走ゾ。貧道「利害」ノ注云、利害トハ、物ヲ破ル也。叮嚀「君徳」ト云テ走ゾ。且道「穿過」ノ注云、丑時ヲバ不レ犯ヌソ。把火「盜猪」ノ子ノ時ヲ不レ犯ゾ。畢竟子丑ノ驀境ト見テ走ゾ。

〔松源院本〕

五月一「地飛」ノ五月ハ夏至、節ト云テ、夏ノ半デ走。半句ハ、正當十五日デ走ゾ。驀此ノ界ヲ云タゾ。山上「飛」ノ陰モ無ク、陽モ無ゾ。是レヲ立処トノ走ゾ。鳥鷄「紫微」ノ回互宛轉ソ走ゾ。木馬「南枝」ノ木馬ハ、陽ノ聞耳デ走ゾ。嘶北風「陽」ヲ以陰ヲ兼テ走ゾ。金鷄「ハ、陰」ノ聞耳デ走ゾ。啼南枝「ハ、陰」ヲ兼テ走ゾ。石翁「拳稀」ノ石「断」ハ少人道消シタゾ。玉「稀」君子道長タゾ。私云、少「消」ハ陰。君「長」ハ、陽デ走ゾ。吾宗ハ陰ヲ君トシ、陽ヲ少人トシタゾ。

霜云「一端的」ノ如「是」ノ眼目トハ、回互宛轉ヲ云テ走ゾ。是用「表人」ノ物表人トハ、主中主デ走ゾ。貧道「利害」ノ利害トハ、物ヲ破ル。然バ、叮嚀ハ損君徳ト云テ走ゾ。且道「市過」ノ刃時ヲバ不犯。犯火「盜猪」ノ子ノ時ヲバ不犯。畢竟、子丑ノ驀境ト見テ走ゾ。

(21) 同小参云、山僧今朝下ニ八句語、諸人各々如何會取。今霄不レ免、重添ニ卑

句。且道、与ニ今朝「是」同是別。拈ニ主丈、擲ニ下階前云、

拈當位有頂天外、挂擲下正當阿僧祇外マテ透

。佗家自有ニ通霄路、

目前モ分外モ天外モ無間モ只一路。

何用從「容求」ニ別路、

別求スキカ有コソ。巍々絶

頂落ニ潭底、上ト下トヲ云。

峭々

家風吹ニ滿路。

中ヲ云。又ハ、上下中一主丈。

是四句之語、滿堂雲衆

各「請」、次ニ後「語」。不レ然飯堂打睡看若。

※「同」、西本ニナシ

※「云」、大本・続本「曰」ニ作ル

※大本・松本「拄杖」ニ、駒本「主杖」ニ作ル

ニ作ル

※西本・駒本「墻前」ニ作ル

※「求」、西本ニ「用トモ」トアリ

※「之」、大本ニナシ

※「若」、大本ニナシ

霜云、用^ニ晨参暮請^ヲ為^ニ什麼^ニ。句々道着^ノ更無^ニ分外^ニ。雖^モ然^ニ土上加^レ泥、玉上[※]加^レ珠[※]、等^ニ閑有^ニ四^一句^ニ、以^テ續^ニ尊韻^ヲ。諸人如何^カ。一^一似^ノ烏藤乾坤外、^{外外到様ヲ云ベ。}千尺釣^一絲着^ニ魚路^ニ。深深処^{深深処到様ヲ云ベ。}正^一偏^ニ互^ニ又不^レ要、狂笛吹入^ニ樵子^ノ路^ニ。樵子^{子樵}路外偏正面互不要^{路外偏正面互不要深々ノ地。(9オ)}

〔西明寺本〕

小参^一前日^一擲^ニ下^下塔前^ニ、拈^ニ當位^ニ、天外^ニ拈^ニ挂^ニタソ。擲^ニ下^下スル正當、阿僧祇却外^ニ透^ニテ走^ニソ。他家^一霄路^一入^ニ前^ニモ分^ニ外^ニモ無^ニ間^ニモ、只^一一^一踏^ニテソウソ。何用^一別路^一入^ニトハ、別^ニ求^ニズスキハ走^ニソ。巍々^一潭底^一入^ニ上^ニト下^ニヲ云^ニテソウソ。峭々^一滿路^一入^ニトハ、中^ニヲ云^ニテ走^ニソ。然ハ、上下中^一一^一主丈^一走^ニソ。是四^一睡看。石霜^一坤外^一入^ニトハ、外^ニ到^ニ様^ニヲ云^ニソ。千尺^一魚路^一入^ニトハ、魚路^ニ深^ニソモ、深々^ニ到^ニ様^ニヲ云^ニタソ。正偏^一子路^一入^ニ樵子^ノ路^ニハ、外^ニ正偏^ニ互^ニ不要^ニ深々^ニ地^ニテ走^ニソ。

〔大輪寺本〕

同小^一階前^一入^ニ注^ニ云、拈^ニスル當^ニ位^ニ、有^ニ頂^ニ天^ニ拈^ニ挂^ニヘ、擲^ニ下^下正當、阿僧祇外^ニ透^ニテ走^ニソ。他家^一宵路^一入^ニ注^ニ云、目^ニ前^ニモ分^ニ外^ニモ無^ニ間^ニモ。只^一一路^一テ走^ニソ何。用^一別路^一入^ニ注^ニ云、別^ニ求^ニウズ透^ニキガ在^ニテコソ。巍巍^一潭底^一入^ニ注^ニ云、上^ニト下^ニトヲ云^ニタゾ。峭峭^一滿路^一入^ニ注^ニ云、中^ニヲ云^ニテ走^ニソ。上中下^一一^一主^一テ走^ニソ此四^一睡看。霜曰^一坤外^一入^ニトハ、外^ニ外^ニ到^ニ様^ニヲ云^ニタソ。千尺^一魚路^一入^ニトハ、深^ニモ深^ニ深^ニ到^ニ様^ニヲ云^ニタゾ。正偏^一子路^一入^ニ注^ニ云、樵子^ノカ路^ニカ、外^ニ正偏^ニ互^ニ不要^ニ深^ニ深^ニ地^ニテ走^ニソ。

※西本・駒本「石霜総(惣)云」ニ、大本・続本「霜曰」ニ作ル
 ※西本ニ「上加^レ玉上^ヲト」トモアリ
 ※「玉」、西本ニ「珠イニ」トアリ
 ※「珠」、西本「玉」ニ作ル
 ※大本「互互」ナシ
 ※「路」、駒本「歌」ニ作ル

〔松源院本〕

同小一前云ハ拈スル當位、有頂天外迄テ挂テ走ゾ。擲下當位、阿僧祇外迄透テ走ゾ。他家一霄路ハ目前モ分外モ無間モ、只一路デ走ゾ。何用一別路ハ別ニ求ウズ透キガ在テコソ。巍々一潭底ハ上下ヲ云テ於イタゾ。峭々一滿路ハ中ヲ云テ走ゾ。然バ、上下中一主丈デ走ゾ。此四一睡看。霜云一坤外ハ外外ニ到リ羊ヲ云タゾ。千尺一魚路ハ深ノモ深キニ到羊ヲ云タゾ。正偏一子路ハ樵子ノ路ガ、外正偏互。不_レ要深々地デ走ゾ。

(22) 六月安居半夏上堂云、旦一月今朝半夏辰、修行道者有_二疎親_一。トハ、偏正明

頭合_レ暗賓中主、_{偏中}暗_一裡含_レ明主下賓。_{正中}暗_一々未_レ明位_一裡真、_{兼中}明_一々

不_レ暗目前人。_{兼中}畢竟會取_二又何物_一。看々崢嶸_一一_レ角麟。トハ、正中記_一得宏

智古佛陞座云、妙存湛々而不_レ有、_{トハ、無取タソ。然、正中偏}真_一照靈々而不_レ無。

有_二ヲ取タソ。然、偏中正_一更_二於_二其_一間_一而退步而看、_{其間トハ、偏正相交界ヲ云。然、}白雲

頌、失曉老婆逢古鏡タソ。_{兼中}到頌云、不落有無誰敢和タソ。此陞座正中諸人者如_二何得_一恁麼行李

去_一。寂滅真功元莫_レ躰。_{(真功)トハ、真功德。}無_一功妙旨太深_一々、_{トハ、無功德。}又無_一功_一。然、

兼中到_二同中有_レ異_一、_{同異・龜細・心念共、}異中有_レ同_一念裡心。_{折合飯炭裏行李スル。}

霜_一曰、光_一陰可_レ惜、日月如_レ箭。寸心莫_レ妄、佛_一祖似_レ流。去_レ聖時_一遙、来_レ凶

- ※「云」、西本・大本・続本「曰」ニ作ル
- ※松本ニ「明頭……中主」ノ七字ヲ欠ク
- ※大本・松本・続本「主中賓」ニ作ル
- ※「人」駒本ニナシ、「私按、同前下脱一字、恐人字手」トアリ
- ※「何物」、西本「什麼物」ニ、駒本・続本「什物」ニ作ル
- ※「古佛」、西本・大本「和尚」ニ作リ、西本ニ「古佛トモ」トアリ
- ※「云」、西本・駒本・続本「曰」ニ作ル
- ※「不有」、駒本「不存」ニ作ル
- ※「而」、西本上ノ「而」ナシ、大本・松本トモニナシ
- ※「者」、松本ニナシ
- ※「行李」、大本「行履」ニ作ル
- ※「莫」、西本・大本・駒本・続本「無」ニ作リ、西本ニ「莫トモ」トアリ
- ※「異中」、松本・駒本「異下」ニ作ル
- ※西本・駒本「石霜捻(惣)云」ニ、大本・続本「曰」ニ作ル
- ※「箭」、駒本「流」ニ作ル

處盛。也須發明此妄。佛法無異轍、只隨人好處。此道言上根妙

器者、一發而便轉。句々吐却向上之勝句妙句。無功功中根好機者、龜中

弁細、々中分龜、合取父母所生口、開千聖示宣門。無功功下根志

念者、凡中知聖、想裡収心、單々屈膝、時々尽妄。功功畢竟會取又

何物。看々崢嶸一角麟。不得近傍。又私云、無功ニ、只一角麟、五位一々此上備タソ。

〔西明寺本〕

六月―疎親ハ疎親トハ、偏正ノ二ツテ走ソ。明頭―中主ハトハ、偏中正テ走ソ。暗裡―下賓ハトハ、正中偏テ走ソ。暗々―裡真ハトハ、兼中到テソウソ。明々―前人ハトハ、兼中至テソウソ。畢竟―角麟ハトハ、正中來ノ君ト云テソウソ。記得―不有ハ有トナラ子ハ、無ヲ取タソ。然ハ、正中偏頌曰、三更初夜月明前タソ。真照―不無ハ無ナラ子ハ、有ヲ取ツタソ。然ハ、偏中正頌云、失曉老婆逢古鏡云タソ。更於―而看ハ其間トハ、偏ト正ト相交タル界ヲ云タソ。然ハ、兼中至頌曰、兩儀交鋒要迴避云タソ。白雲―山瘦ハトハ、兼中到頌云、不落有無誰敢〔和〕。私云、此陸座テ正中來ノ沙汰ヲ一向セヌカ面白ソ。只能不解〔触〕當今諱也。勝前朝斷舌才。受意沙汰ヲセヌソ。諸人―李去ハ行李トハ、前ノ四位ヲ折合スル処ヲ云テソウソ。寂滅―無鉢ハ真功德テ走ソ。無功―深々ハ無功トハ、無功妙旨ノ德タソ。妙旨深々トハ、無功ノ功テ走。然、兼中到ヲ云テ走ソ。同中―裡心ハ異同龜細心念共折合、販炭裡行李シテ走ソ。石霜―好處ハ光―惜了、只隨人處。此道言妄タソ。上根―妙句ハ無功ノ功ヲ云タソ。中根―宣門ハ無功ヲ云テ走ソ。下根―尽忘ハ功功ヲ云テソウソ。早竟―角麟ハ誰不レ得近傍。又私云、無功々無功、只一角麟、五位一々、此上ニ備タソ。

※「妄」、西本・松本・駒本・続本「忘」ニ作リ、大本「忘妄」ニ作ル

※「來」、松本「未」ニ作ル

※「佛法」、駒本「佛祖」ニ作ル

※西本・駒本「一撥」ニ作ル

※「者」大本ニナシ

※「示宣」大本「不宣」ニ作ル

※「志念」、西本ハ虫損、大本「妄念」ニ作ル

作ル

※「妄」、西本「忘」ニ作ル

※「看々」、大本ニナシ

〔大輪寺本〕

六月―疎親^ハ注云、疎親トハ、偏正ノニツテ走ゾ。明頭―中主^ハトハ、偏中正テ走ゾ。暗裏―中賓^ハトハ、正中偏テ走ゾ。暗暗―裡真^ハトハ、兼中到テ走ゾ。明明―前人^ハトハ、兼中至テ走ゾ。畢竟―角麟^ハトハ、正中來ノ君ト走ゾ。記得―不有^ハトハ、無ヲ取タゾ。然ハ、正^ハ中偏ノ頌曰、三更初夜月明ノ前タソ。真照―不無^ハトハ、有ヲトツタソ。然ハ、偏中正ノ頌曰、失曉ノ老婆逢^ニ古鏡^ニタゾ。更於―步看^ハ注云、其間トハ、偏ト正ト相交タル境ヲ云タゾ。然ハ、兼中至ノ頌曰、兩^ハ刃交鋒^ニ要^ニ迴避^ニト云タソ。白雪―山瘦^ハトハ、兼中到ノ頌曰、不落^ニ有^ニ無^ニ誰^ハ敢^ハ和^ハト云タゾ。此ノ陸座テ、正中來ノ沙^ハ伏ヲ一向ニセヌカ、面白^ゾ。只ダ能ク當^レ今不觸^レ舌^ハ才^ハ、此ノ意ヲ受テ沙^ハ伏セヌゾ。諸人―履去^ハトハ、前ノ四^ハ句折^ハ合ノ処ヲ云テ走ゾ。寂滅―無^ハ寐^ハ注云、真^ハ功トハ、真ノ功^ハ徳テ走ゾ。元ト無^ハ寐^ハレバ真^ハ功^ハデ走ゾ。無^ハ功^ハ深深^ハトハ、無^ハ功^ハノ功^ハデ走ゾ。然ハ、兼中到ヲ云テ走ゾ。同中―裏心^ハ注云、異同・龜細・心念共ニ折^ハ合^ハノ、皈^ハ炭^ハ裡^ハ行^ハ履^ハノ走ゾ。

霜曰―好^ハ処^ハ注云、此道ニ言^ハ事^ハハ無^ハイゾ。上根―妙句^ハ注云、無^ハ功ヲ云テ走ゾ。中根―宣門^ハトハ、無^ハ功ノ処ヲ云テ走ゾ。下根―尽妄^ハ注云、功^ハ処ヲ云テ走ゾ。畢竟―角麟^ハ注云、不落^ニ近傍^ニ。又私、無^ハ功ノ功^ハタソ。一^ハ角ノ麟^ハトハ、五^ハ位^ハ一^ハニ^ハ此^ハニ備^ハタソ。

〔松源院本〕

六月―中賓^ハ正中偏^ハデ走ゾ。暗々―裏真^ハ兼中到^ハデ走ゾ。明々―前人^ハ兼中至^ハデ走ゾ。畢竟―角麟^ハ正中來^ハ君^ハデ走ゾ。記得―不有^ハ無^ハ取^ハタゾ。然ハ、正中偏ノ頌云、三更初夜月明^ハ前^ハ。真照―不無^ハ有^ハ取^ハタゾ。然ハ、偏中ノ正^ハデ走ゾ。頌云、失曉ノ老婆逢^ニ古鏡^ニ。更於―步看^ハ其間^ハトハ、偏^ハ与^ハ正^ハ相^ハ交^ハタル界ヲ云タゾ。然ハ、兼中至ノ頌ニ、兩^ハ刃交鋒^ニ難^ニ迴避^ニ。白雲―山瘦^ハ兼中到^ハ頌ニ、不落^ニ有^ニ無^ニ誰^ハ敢^ハ和^ハ。此陸座デ、正中來ノ沙^ハ伏ヲ一向ニセヌガ面白^ゾ。只能―古才^ハ此心ヲ受テ、沙汰ヲセヌゾ。諸人―李云^ハ前四位折^ハ合ノ処ヲ云テ走ゾ、寂滅―莫^ハ体^ハ真^ハ功^ハトハ、真^ハ功ヲ得テ走ゾ。元ト体イ無^ハレバ、真^ハ功^ハデ走ゾ。無^ハ功―深々^ハ無^ハ功^ハ徳^ハデ走ゾ。妙―深トハ、無^ハ功ノ々^ハデ走ゾ。然ハ、兼中到ヲ云テ走ゾ。同中―裏心^ハ異^ハ中^ハ異^ハ有^ハ。異同・

龜細・心念共ニ折合、飯ニ炭裏ニ行李シタツ。

霜云「好処ハ此道ニ云「ハ無イゾ」上根「妙句ハ無切ノ切デ走ゾ」中根「宣門ハ無切ノ処デ走ゾ」下根「尽妄ハ切処ヲ云テ走ゾ」畢竟「角麟ハ不レ得ニ近傍」私云、無切々。只一角麟、五位一此上備タゾ。

(23) 同小参曰、夜間洗レ熱涼飄々、六月皎然タリ滿天雪。非陰氣陽光、無向無背、理夏泯

青林日「晚人飯」家、夕月落ニ山頭、欲暮未暮頃暗、爲主近明。然ハ、正偏。暮頃、一分白二分黒圈兒逢。●紅「谷天」明客喚

月。残月懸「嶺頭」、欲明未明頃、明ヲ爲主近暗。一塵入ニ正「受」、全身独露 皎々而

「向」如幻三昧之中、君子以独立不懼、遯世無悶。然ハ、諸塵三昧起。トハ、心識 歴々而

得ニ分身三昧之夏也。随物不碍。然ハ、兼中「百季法門、万億妙義、与レ吾拈ニ来一星

夏ニ看。トハ、中。五位ハ、若不ニ悉弁、浪「破鋪」席漠。不ニ吾家 爲ニ種草。

霜云、最初两句、法「身一位之様子、法身ノ境界ハ、寂光土。寂光土トハ、中正。中

中到。次「一」作到ニ密處「底模範也。正中偏ハ、下テ露理ヲ、偏中正ハ、上テ就理。何レ

断ハ偏中正。次「一結、又飯ニ半途、寄宿芦江」。謂之向ニ如幻三昧中。如々ノ来

過。然ハ、正中来ハ大過卦。從レ此相「随来而夏々無碍。謂之得ニ分身三昧夏」。

※「曰」、西本・松本「云」ニ作ル

※大本「滿雪天」ニ作ル

※「晚」、西本「耽」ニ作ル

※「家」、諸本「宅」ニ作ル

※「向」、原本ニハナキモ、諸本ニヨリ補ウ

※「也」、大本・松本ニナシ

※「百季」、諸本「百千」ニ作ル

※「万億」、大本「万境」ニ作ル

※「与」、松本「為」ニ作ル

※「看」、大本ニナシ

※西本・駒本「石霜総(惣)云」ニ、大本・続本「霜曰」ニ作ル

※「處」、駒本ニナシ

※「而」、松本ニナシ

※「什麼物」三字松本ニナシ、駒本「什

木舟中虚々通自在意。然ハ、兼中至ハ中孚卦。下ハ兌、上ハ巽、䷸、此卦。且道、什麼物、恁麼得自由。与我道看。若不^シ然、浪一破鋪席漢。暫時作^ス个茶話、聞^ク即聞。飄々^{タリ}出^ル岫雲、濯々^{タリ}洗^フ澗月。看^ミ直上云、一峰万重ノ雲霄ニ聳ヌ。看^ミ直下云、一月万丈深潭ニ印ス。莫忘五位一位。

〔西明寺本〕

同小一^ニ天雪ハトハ、非陰氣、非陽光、無背無向、理夏泯然。々ハ、兼中到テソウソ。念ニ、黑圈兒モ逢テ走ソ、●▽。青林一^ニ版宅ハ残月落山頭、欲暮未暮頭ハ、暗為^リ主、近明。然ハ、正中偏テ走ソ。暮ル頭ハ、一分白二分黑圈兒モ逢テ走ソ、●▽。紅谷一^ニ喚月ハ残月懸嶺頭、欲明未明頭ハ、明為^リ主、近暗。然ハ、偏中正テ走ソ。二分白一分黑圈兒モ逢テ走ソ、●▽。一塵一^ニ正受ハトハ、全身独露界テ走ソ▽。皎々之中ハトハ、君子以独立不懼、遯世無悶。然ハ、正中來テ走ソ。圖中一点圈兒モ逢テ走ソ、○▽。諸塵一^ニ昧起ハトハ、心識了然トシタソ▽。歷々一^ニ夏也ハトハ、随物不碍。然ハ、兼中至テ走ソ。紙白圈兒モ逢テ走ソ、○▽。百千一^ニ夏看ハト云ハ、中タソ。五位一々ニ以^テ中可^ク看▽。若悉一^ニ席迭ハ不^レ吾家ノ為^ニ種草▽。

石霜一^ニ様子ハトハ、法身境界、寂光土。寂光土トハ、中正ヲ云テ走ソ、中トハ、重離ノ卦、二ト五トヲ云タソ、䷶。然ハ、兼中到テ走ソ▽。次一^ニ範也ハトハ、正中偏ハ、下テ頭^レ理。偏中正、上就^レ理。密処模範テソウソ。然ハ、巽下断ハ正中偏、䷴、此卦テ走ソ、兌上断、此卦ハ、偏中正テ走ソ▽。次一^ニ昧中ハトハ、半途トハ中タソ。向如幻一中トハ、如々來タソ。大者過。然ハ、正中来ハ大過ノ卦テソウソ。下巽上兌、䷸、此卦▽。從此一^ニ昧夏ハトハ、木舟中虚々通自在ナリト云意タソ。然ハ、兼中至ハ中孚ノ卦テ走ソ。下兌上巽、䷸、此卦テ走ソ▽。且道一^ニ道看ハトハ、飄々出^ル岫雲、直上看テ云、一峰万重雲霄聳。濯々洗^フ澗月、直下看テ云、一月万丈深潭印。莫忘五位一位▽。

物ニ作ル

※「自由」、松本「自在」ニ作ル

※「个」、駒本「此」ニ作ル

〔大輪寺本〕

同小―雪天入注云、非陰氣、非陽光、無向無背、理亶泯絶、兼中到テ走ゾ。全黒ノ圈兒モ逢テ走ゾ。●▽青林―坂宅入残月落山頭、欲暮未暮境ハ、暗為主、近明。然ハ、正中偏テ走ゾ。暮境、一分白二分黒ノ圈兒モ逢テ走ゾ。●▽紅谷―喚月入トハ、残月懸嶺頭、欲明未明境ハ、明為主、近暗。然ハ、偏中正テ走ゾ。二分白一分黒ノ圈兒モ逢テ走ゾ。●▽一塵―昧中入注云、一塵入正受トハ、全身ヲ獨リ露ス境テ走ゾ。皎皎而向幻三昧中トハ、君子以テ独立スレ共、不懼、遯世無悶。然ハ、正中來テ走ゾ。圖中一點ノ圈兒モ逢テ走ゾ。●▽諸塵―昧起入トハ、心識了然タル処タゾ▽。歴歴―昧事入トハ、随物不碍。然ハ、兼中至テ走ゾ。純白ノ圈兒モ逢テ走ゾ。○▽百千―星事入注云、一星事トハ、中タゾ。五位ハ一一以中可見▽。若不―席伏入注云、不吾家為三種草▽。

霜曰―様子入注云、法身ノ境界ハ、寂光土也。寂光土トハ、中正ヲ云テ走ゾ。中正トハ、中重離卦、二ト五トラ云テ走ゾ、䷵。然ハ、兼中到テ走ゾ▽。次一―範也入注云、正中偏ハ、下テ理ヲ露シ、偏中正ハ、上テ理ニ就クソ。何モ密処ノ模範テ走ゾ。然ハ、巽下断ハ正中偏、三、此ノ卦テ走ゾ。兌上断ハ偏中正、三、此ノ卦テ走ゾ▽。次一―昧中入注云、如來テ走ゾ。大ト者、大過也。然ハ、正中來ハ大過卦テ走ゾ。下巽ヲ上兌ヲ、䷵、此ノ卦也▽。從此―昧亶入注云、木舟中虚虚通自在ト云意タソ。然ハ、兼中至ハ、中孚ノ卦テ走ゾ。下兌ヲ上巽ヲ、䷵、此ノ卦テ走ゾ▽。且道―澗月入注云、看直上曰ク、一峰万重ノ雲霄聳ハ、濯濯トノ洗澗月。看直下云、一月万丈深潭ニ印ス。莫忘五位一位▽。

〔松源院本〕

同小―天雪入非陰氣、非陽光、無向無背、理亶泯絶、兼中到テ走ゾ。全黒ノ圈兒モ逢テ走ゾ。●▽青林―坂宅入残月落山頭、欲暮未暮境、暗ハ為主、近明ニ。正中偏テ走ゾ。暮ル項、一分白二分黒圈兒モ逢テ走ゾ。●▽紅谷―喚月入残月懸嶺頭、欲明未明項、明ハ主ト成リ、暗ニ近。然ハ、偏中正テ走ゾ。二分白一分黒圈兒モ逢テ走ゾ、●▽一塵―昧中入―受、全身ニ独露ノ界テ走ゾ。皎―中、君子以、独立ノ不懼ト云タゾ。然バ、正中來

ノ圖、圈兒モ逢テ走ゾ。◎▽。諸塵一昧起ハ心識了然トシタゾ▽。歷々一昧更ハ随レ物不レ碍。然バ、兼中至デ走ゾ。白一辺ノ圈兒モ逢テ走ゾ。○▽百千一更看ハ一星一更トハ、中タゾ。五位ハ、一一ニ以レ中ヲ可レ見▽。若不一席漢ハ不三吾家為三種草一▽。

霜云一様子ハ法一身ノ境界ハ、寂光土。寂光土ハ、中正ヲ云テ走ゾ。中正トハ、重離ノ卦ノ三ト五トヲ云テ走ゾ、䷥。兼中到デ走ゾ▽。次一一範也ハ正中偏ハ、下テ裡ヲ露シ、偏中正ハ、上テ裡ニ就ク。何モ密処ノ模範デ走ゾ。然バ、巽下断ハ正中偏ハ、此卦テ走ゾ。兌上断、偏中正ハ、此卦テ走ゾ▽。次一一昧中ハ如々ノ来デ走ゾ。然バ、正中来ハ、大過ノ卦テ走ゾ。下巽上兌、䷸、此卦テ走ゾ▽。從此一昧更ハ木一舟中虚々通自在也ト云意タゾ。然バ、兼中至ハ、中孚ノ卦テ走ゾ。下兌上巽、䷼、此卦テ走ゾ▽。且道一澗月ハ直上ヲ看、一峯万重ノ聳ニ雲霄。濯一月、直下ヲ看テ云、一月万丈ノ印ニ深潭。早竟莫レ忘、五位皈ニ一位、云云▽。

(24) 六月三五上堂[※]、玉機轉側金堂冷、石室斜^ニ開鉄戸明^{ナリ}。内正功轉^{ソウソ}。木鷄喚[※]月

壺天曉、泥牛吼^レ花客之情。内離^ハ外^ヘ。正當恁麼時、青山無心隣^ニ白雲、白馬

無^レ鞭出^ニ芦花^一。外^ヘ全^ニ路不^ニ旧道^一、人不^ニ忘家^一、儼尔^ト独皈^ル来。那辺ヲ知了テ、這

此位、坐^ニ在尊貴^一、此便作^ニ水牯牛一角毛頑然^一。江上更^ニ鋤犁^一、山下罷^ニ耕步^一。須^レ知

是尊貴自在処ヲ云。此レ沙門轉身語。是異類。然後、随^テ類不^レ墮、随^テ色不^レ碍。

以^レ不^レ明^ニ声色^一故。随^レ処墮、須^レ有^下向^上。今時衲僧、當^ニ恁麼参究^一。明安云、此三種語明得ハ、轉位始得ト云。

霜曰、初^一下一鉄、位裡得^レ妙纔轉^レ身。玉人欲^レ破^レ夢、一一下一作、從^レ此渡線

※「云」、西本・続本「曰」ニ作ル
※駒本「木雞……恁麼時」ノ十九字ヲ脱ス

※西本「格外情」、大本「格外城」、松本

「格外機」、続本「客游城」ニ作ル

※大本「儼然」ニ作ル

※「更」、諸本「復(復)」ニ作ル

※「行履」、西本・松本「行李」ニ作ル

※西本・駒本「石霜総(惣)曰」ニ、大

無鼻之針、半路未^レ得[※]機。石女欲登機、三轉妙旨、再着^ヒ天明^ニ、又告^ク胡^一信^一。

消息傳來、四範玄句、宿於寄^ニ芦江^一來、又破^ル蓬窓[※]夢^一。暫時得^レ機[※]少^ニ音容^一。

音^ハ、音信^ニ。容^ハ、向君^ハ時ノ容^ニツクロイ^一。是從^ニ淵源^一澄^一照[※]之底^一、那^ハ邊^ニ能^ク發^レ光^ニ能^ク出^一。

應。沙門轉^ハ。歷^{タル}々^一諸塵、愕然[※]而不^レ遺^{ハスレ}、隨^ニ墮^一ヲ。若[※]於^ニ如^一是^ハ、得^レ將^ハ去^ハ、東家[※]作^ニ馬^一、

西家^ニ作^レ馬^一也^ハ不^レ妨^一。類^ニ墮^一ノ^ハ。且^ニ道^一、是[※]孰^カ分^ニ上^一夏^一。尊貴^ニ墮^一。

〔西明寺本〕

六月—戸明^ハトハ、内正^ニ功^一轉^ノ走^ソ。木鷄—外情^ハトハ、内ヲハ已^レ離^一、外エ未^レ出^一。正當—芦花^ハトハ、外江^ニ全^一轉^タゾ。路不^レ皈^レ來^ハトハ、知^レ那^ハ邊^ニ了^一テ却^レ來^者、那^ハ裡^ニ行^ニ李^一。若不^レ虛^ニ此^一位^一、坐^ニ在^一尊貴^ニ、此是^ニ尊貴^一自在^ノ処^ヲ云^タソ。便^レ作^一李^ハ処^ハトハ、是^ハ沙門^ニ轉^ニ身^一語^{ナリ}。是異類中^ノ夏^ニ。此是^ニ隨類^一自在^ノ処^ヲ云^タソ。然後—不^レ碍^ハトハ、以^レ不^レ的^一声^ニ色^一故^一、隨^ニ処^一墮^一、須^ニ向^一声^ニ色^一有^ニ出^一身^ノ路^一。此是^ニ隨^一処^ニ自在^ノ処^ヲ云^タソ。今^ハ時—參^ニ究^一トハ、明安^云、此三種^ニ語^一、明得^ニ轉^一位^ニ始^一得^ト云^ハ処^ニテ走^ソ。

石霜—轉^ニ身^一トハ、欲^ニ夢^一破^一界^ニテソウ^一。二下—得^ニ機^一トハ、石女^ニ欲^一機^ニ登^一、未^レ登^レ界^ニテ走^ソ。三轉—胡信^ハトハ、消息^ニ傳^一來^一、文彩^ニ已^一露^レテ走^ソ。四範—窓^ニ夢^一トハ、那時^ノ退^レ位^ニテ走^ソ。暫時—音容^ハ音^ハ、音^ニ信^一ナリ。容^ハ、向君^ハ時ノ容^ニツクロイ^一タソ。少^トハ、不^レ守^レ閑^一云^意欲^ハ。是從^ニ之^一底^ハ、淵源^ニ底^一トハ、那^ハ邊^ニデソウ^一。能^レ發^一出^ニ應^一トハ、沙門^ニ轉^ニ身^一ノ^ハ処^ニテソウ^一。歷々—不^レ遺^ハトハ、隨^ニ墮^一ヲ云^テ走^ソ。若^レ能^一作^ニ馬^一トハ、類^ニ墮^一テソウ^一。也不^レ上^レ夏^一トハ、尊貴^ニ墮^一テ走^ソ。

- 本・続本「霜日」ニ作ル
※「鉄」、西本「一鏃」ニ作り、「鉄トモ」トアリ
※大本「妙得」ニ作ル
※「得」、大本ニナシ
※西本・大本「宿寄於」、松本「寄宿」ニ、駒本「寄宿於」ニ作ル
※「蓬窓」、西本・松本「蓬窓」ニ、大本・駒本「蓬窓」ニ、続本「蓬窓」ニ作ル
※大本・松本「音容少（也）」ニ作ル
※「之」、大本・駒本ニナシ
※大本「愕」ヲ脱ス
※諸本「於」ヲ「能」ニ作ル
※大本・松本・駒本ハ「東家作馬・西家作馬」ニ作ル
※松本ニ「是」ナシ

〔大輪寺本〕

六月―外城入注云、門ヲ離レテ外ヘハ未_レ出。玉機轉側ノ金堂冷シ、石室斜開鉄戸明トハ、内正功ヲ轉_レ走ゾ。正當―蘆花入注云、外ヘ全轉_レ走ゾ。路不―飯来入注云、知_レ那邊_二了_一テ這辺ニ行履ス。若不_レ虛_二此_一ノ位_一、座_二在_レ尊貴_一、此ハ是_レ尊貴自在ノ処ヲ云テ走ゾ。便作―履処入注云、是_レ沙門轉_レ身ノ語也。是_レ沙門中ノ事也。此ハ是_レ隨類自在ノ所ヲ云タゾ。然後―不礙入注云、以テ不_レ明_二聲色_一故也。隨_レ処墮シ、須_二向_レ聲色_一出身ノ路有_二、此ハ是_レ隨_レ処自在ノ処ヲ云タゾ。今時―参究入トハ、明安曰、此三種ノ語ヲ明得ハ轉_レ位始_レ得ト云タ処テ走ゾ。

霜曰―轉身入注云、玉人欲_レ夢_レ破_レ未_レ破_レ境テ走ゾ。二下―未機入注云、石女欲_レ登_レ未_レ登_レ境テ走ゾ。三轉―胡信入注云、消息傳來テ文彩已ニ露テ走ゾ。四範―窓夢入トハ、那時退_レ位走ゾ。暫時―少也入トハ、音ハ音信、容ハ向_レ君ニ時ノスガタツクロイタゾ。少トハ、閑ヲモ不_レ守ト云心カ。是從―照底入トハ、那邊テ走ゾ。能發―出應入トハ、沙門轉_レ身処テ走ゾ。歴歴―不遺入トハ、隨_レ墮ヲ云テ走ゾ。若能―不妨入トハ、類_レ墮ノ処ヲ云テ走ゾ。且道―上夏入トハ、尊貴墮テ走ゾ。

〔松源院本〕

六月―戸明入内ヲバ離レテ、外ヘハ未_レ出ゾ。木雞―外機入内ハ正功ヲ轉タゾ。正當―芦花入外ヘ全ク轉タゾ。路不―飯来入知_レ那邊_二了_一テ、這辺ニ行李。若シ不_レ虛_二此_一位_一、坐_二在_レ尊貴_一ト云テ、尊貴自在ノ処デ走ゾ。便作―李処入是沙門轉_レ身ノ語也。是_レ異類中ノ夏也。此レハ是_レ隨_レ類自在ノ処ヲ云タゾ。然後―不礙入以テ不_レ明_二聲色_一故也。隨_レ処墮シ、須_二向_レ聲色_一出身ノ路有。此レハ是_レ隨_レ処自在ノ処ヲ云タゾ。今時―参究入是ワ明安ノ云、此ノ五種ノ語ヲ明得、轉_レ位始_レ得ト云処デ走ゾ。

霜云―轉身入玉人欲_レ夢_レ破_レ未_レ破_レ界テ走ゾ。二下―得機入石女欲_レ登_レ機ニ未_レ登_レ界テ走ゾ。三轉―胡信入消息傳來テ、文彩已ニ露テ走ゾ。四範―窓夢入那_レ眈ニ退_レ位走ゾ。暫時―容少入音ハ言信、容ハ向_レ君ニ容_レ。少トハ、閑ヲモ不_レ守ヲ云ゾ。是從―之底入那邊デ走ゾ。

能發―出應入沙門轉身ノ処デ走ゾ。歷々―不遣入随墮ヲ云テ走ゾ。若能―不妨入類墮ノ処
デ走ゾ。且道―上夏入尊貴墮デ走ゾ。

(25) 同小参云、諸佛出身處、東山水上行。

不顧前後左右、當頭正面ニソ
突ト来ソ。然ハ、正中来。

震闍垂ニ玉

簾、雲楊擁ニ天青。三冬之白雲、九夏之綠樹。

如々ニ来ソ程ニ、不離震闍(霜)闍、
雪楊ヲ下ラヌヲモ。三冬白雪トハ、霜

眉雪鬢姿ソト。九夏綠樹上、陽氣盛
ナル眩々。然ハ、火中出ル意カ。

新見凉水重増ニ寒冰。陰甚ハタシイ眩々ソ。然ハ、
堂々終ニ不墮今眩々。安居

同衆、禁足護生、早―来晚―去。若知ニ这个消息子、横行天下、脚踏ニ實地。如々ニ
来程ニ、

動ノ動。若未レ然、東来西去漢。

如々ノ体ヲ離テ来ルヲ、
有為轉變ノ妄心ト云。

霜云、五須弥山、二鉄圍峰。大鵬翔ニ九天、飛竜躍ニ海外。終中トハ、
記

得、僧問ニ雲門、如何是諸佛出身處。門云、東山水上行。僧云、如何得會。

門打一拳云、是什麼。此欄問一答、此レマテハ、与ニ這個垂語、宛如ニ爺子阿

母。近ノモ近ク、親キモ親ソ。畢竟而如何履踐蹋去。貧道驀頭下ニ四句語。是

正是徧、衆中免角者、試断看。不三敢斥
言。

〔西明寺本〕

小参―上行入前后左右ヲ不顧、當頭正面ニソ突来タソ。然ハ、正中来ヲ云テ走ゾ。震闍―天青

入トハ、如々ニ来タ程ニ、不離震闍、不レ下ニ雲楊ニモナリ。新見凉水入トハ、霜眉雪鬢ノ

姿テソウソ。九夏―綠樹入トハ、陽氣盛ナル時タソ。然ハ、火中ニ出ト云意テ走ゾ。新見―

『靈竺淨慈自得禪師錄抄』の研究(一)(石川)

※同、西本ニナシ

※云、大本・続本「日」ニ作ヲ

※雲、駒本「雪」ニ作ル

※之、大本ニナシ

※雲、諸本「雪」ニ作ル

※西本「石霜総云」ニ、大本・続本「霜

日」ニ作ル、駒本「霜云、……僧問」

マデ二十四字脱ス

※大本・松本「雲門僧問」ニ作ル

※云、駒本「日」ニ作ル

※松本「欄門」ニ、読本「欄門」ニ作ル

※与、松本ニナシ

※履踐蹋、大本「履踏」ニ、松本・駒

本「履踐」ニ作ル

※大本・松本・駒本・続本「逸角」ニ作

ル

寒氷ハトハ、陰甚シイ時タソ。然ハ、堂々終イニ不_レ墮_ニ今時_一。安居―實地ハ如ニノ来タ程、動ノ不動ナリ。若不―去_レ沃_ハ如ノ体ヲ离テ来ヲ、有_レ為_レ轉變ノ妄心ト云ゾ。

石霜―海外ハトハ、終ニ中トワ不_レ言ナリ。記得―一答ハ此迄ハ、言_レ更ハ無ソ。与這―阿母ハトハ、近_レモ近、親_レモ親者タソ。然ハ、似ト言ハスキタソ、早竟―断看ハトハ、不_レ敢斥言_ニ是_一。

〔大輪寺本〕

同小―上行ハ注云、前後左右不_レ顧、當頭正面ニ_ト突来タゾ。然ハ、正来ヲ云テ走ゾ。震聞―天青ハトハ、如_レトノ来タソ。程ニ、不_レ離_ニ震聞_一。不_レ下_ニ雪_一楊_ニモ_一。三冬―白雪ハトハ、霜眉雪鬢ノ姿テ走ゾ。九夏―緑樹ハトハ、陽氣盛ナル_ニ叱_一タソ。然レハ、火中ニ出ト云心テ走ゾ。新見―寒氷ハトハ、陰甚_{ハナニタヤ}時タソ。然ハ、堂々終ニ不_レ墮_ニ今時_一ナリ。安居―實地ハ注云、如_レ如来タ程ニ、動_レノ不動ゾ。若不―去_レ沃_ハ注云、如ノ体ヲ離テ来ルヲ、有_レ為_レ轉變ノ忘心ト云タソ。

霜曰―海外ハトハ、終ニ中トハ云ゾ。記得―一答ハ注云、此迄ハ、言_レ更ハ無イゾ。与這―阿母ハ注云、近クテモ近ク、親_レモ親イ者タソ。然ハ、似ト云ハスキタソ。畢竟―断看ハ注云、不_レ敢斥言_ニ是_一ナリ。

〔松源院本〕

同小―上行ハ前後左右ヲ不_レ顧、當頭正面ニ_ト突来タゾ。然ハ、正中来ヲ云テ走ゾ。震聞―天青ハ如々ニノ来タ呈ニ、不_レ離_ニ震聞_一、不_レ下_ニ雪_一楊_ニモ_一。三冬―白雪ハ霜眉雪鬢ノ姿デ走ゾ。九夏―緑樹ハ陽氣盛ナル_ニ叱_一ゾ。然ハ、火中ニ出テ走ゾ。新見―寒氷ハ陰甚シキ_ニ叱_一ゾ。然バ、堂々終ニ今_ニ叱_一ニ不_レ墮_ニ今時_一。安居―實地ハ如々ニノ来タ呈ニ、動_レノ不動ゾ。若不―去_レ沃_ハ注云、如ノ体ヲ離テ来ルヲ、有_レ為_レ轉變ノ妄身ト云テ走ゾ。身ハ、心ノ字。

霜云―海外ハ終ニ中トワ云ゾ。記得―一答ハ爰迄ハ、言_レ更ハ無ソ。這个―阿母ハ近_レモ親者ゾ。似タト云ヘバ、透キタゾ。早竟―断看ハ不_レ敢斥言_ニ是_一也。